

The region agriculture leader of Wakayama prefecture

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

和歌山の 農業士

2023
11
November

地域農業をリードする熱き農業者たち

第21号



はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が、互いの活動を共有するとともに、関係者の皆様や一般の方々へも、広く積極的に情報発信していくため作成しています。

農業士が長年の農業経験で培った経営観や、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や、農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

C【目次】 CONTENTS

<巻頭言>

- 農業の未来を考える (和歌山県農業士会連絡協議会 副会長 木下 善久) …… 1
- 「まずは稼げる農業が必要です」
(和歌山県農林水産部 農業生産局果樹園芸課 課長 岩倉 幸信) …… 2

<私の農業>

農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

- これまでの私、これからの私 (海南市 指導農業士 岡室 孝明) …… 3
- 理想の農業、地域づくりに向けて (紀の川市 指導農業士 辻岡 孝明) …… 5
- 柿への想いと取り組み (九度山町 地域農業士 海堀 善照) …… 7
- 限られた農地での所得安定を目指して (有田川町 指導農業士 谷畑 進) …… 9
- 「エコファームめだか」が目指す経営
～他農家と違った栽培でファンを集客 消費後継者づくり～
(日高川町 指導農業士 清水 俊夫) …… 11
- 大好きな農業を楽しく続けたい！ (田辺市 指導農業士 芝峰 理恵子) …… 13

<農業に懸ける想い>

農業への熱い思いや取り組みを紹介

- ～就農2年目の私が伝えたいこと～ (海南市 4Hクラブ 井戸 佑輔) …… 15
- 「農業後継者を残すために」 (紀の川市 青年農業士 風呂谷 康嗣) …… 16
- 省力化に取り組み、楽しみながら働く (九度山町 地域農業士 西峯 宏典) …… 17
- 農業経営の継承と新たな経営形態への挑戦 (湯浅町 4Hクラブ 畑 篤志) …… 18
- これからの農業 (印南町 青年農業士 新谷 力) …… 19
- 地域・仲間とのつながりを大切に (上富田町 青年農業士 前田 純志) …… 20

<県農林大学校生です>

農学部1年生の自己紹介&近況報告 …… 21

●園芸学科

植田 智裕	奥崎 美幸	梅本 汰一
尾田 大聖	小野田 翔太	貝野 亘

巻頭言

農業の未来を考える

和歌山県農業士会連絡協議会

副会長 木下善久



伊都地方農業士連絡協議会（橋本市農業士会）の木下善久と申します。和歌山県農業士会連絡協議会の副会長の任を受けて5年目になります。

初めに、本年6月2日の台風2号による集中豪雨の被害および8月15日の台風7号により被害を受けた皆様に、お見舞いを申し上げます。台風2号の集中豪雨では線状降水帯が発生し、人的被害や住宅等の被害、河川や道路など公共土木施設の被害、農業分野では農作物や園芸施設、農地、水路、ため池等、各地域で大きな被害が発生しました。これまでの線状降水帯による集中豪雨の被害は、九州、中国、東北地方等で聞きますが、まさか和歌山県で発生するとは思いませんでした。台風7号も潮岬に上陸して北北西に進路を取り、和歌山市に到達するとは思いませんでした。いずれの台風も、皆様方の被害が少なかったことを祈るばかりです。

さて、3年間に及ぶ新型コロナウイルス感染症対策の行動制限が5月に解除され、通常の生活に戻ると期待していたところに台風、集中豪雨、干ばつ、高温等による異常気象です。台風が発生したならば、西へ行ったり下に行ったりの異常な進路を取り、さらには勢力も強くて各地で大きな被害を出しています。「地球は温暖化ではなく、沸騰化の時代に入った。」とグテーレス国際連合事務総長はおっしゃるし、大変な時代になったと感じます。

また、ロシアによるウクライナ侵略による肥料等の高騰、新型コロナウイルス感染症の影響による物流の停滞と資材の高騰、円安によるガソリンの高騰など、日々の世界情勢により経済が大きな影響を受けています。特にガソリンについては、今年の末には1ℓ

当たり200円になるという報道もあります。人手不足も数年前から言われており、時給1,000円では誰も来てくれません。物価が上昇することにより、農産物の販売単価も上がってくれば良いのですが、そういう訳にもいかないでしょう。生産コストの削減もすでに限界です。だからこそ、生産経費を販売価格に転嫁する方法を考えていかないとはいけません。

これからの農業は単純に農産物を作り、出荷して販売代金を入金してもらい、通帳を見て喜ぶ様な時代では無いと思います。まず、誰よりも早く情報を入手し、頭を使って考えて行動し、少しでも高く売れるように努力する事が必要ではないでしょうか？社会の環境は大きく変わってきています。昔と比べて様々な情報の入手や伝達し易くなり、交通の便も良くなりました。お店に行かずにネットで売り買いができ、会社に出勤せずに家からリモートで仕事をする人もいます。私達も環境の変化にあわせ、より良い方法を考えていかなければいけません。

ただ、どのようなことになっても、農業という仕事と農家の生活が変わるわけではありません。毎日の天気に一喜一憂し、朝起きて畑に行き、汗を流して農作業をして、日が暮れたら帰って風呂に入って酒を飲んで寝る。ただひたすら、台風は来ないでくれと祈り、夏なら天気で気温が高く、1週間に一度は夕立が降ってくれる事を願うばかりです。

今年は残暑も厳しいと言われていています。皆様には、体調管理に気を付けて農作業に励んで頂く事を願うばかりです。

最後になりましたが、皆様のご健勝と和歌山県農業の益々のご発展をお祈り申し上げます。

巻頭言

「まずは稼げる農業が必要です」

和歌山県農林水産部 農業生産局

果樹園芸課長 岩倉幸信



和歌山県の農業産出額は、農家数や耕地面積が徐々に減少する中でここ数年1,100億円から1,200億円程度で横ばいが続いています。生産量の減少により品目によっては価格が比較的堅調に推移していることなどが要因ですが、見方を変えると農家の廃業が進んでいるということです。

現場の農業経営を見ると、農業資材や燃料の価格高騰により厳しさを増しています。

また、日本が人口減少社会に入らる中、産業間での労働力の奪い合いが始まっており、今後、農家の後継者や雇用の確保もさらに難しくなるかもしれません。

こうした社会経済情勢の中で、将来の担い手を確保し本県農業が持続的に成長するためには、まずは「稼げる農業」が必要であると思います。儲からないと他産業に人材は流出します。生産面では、限られた人手でこれまで以上に農作業の省力化を図りながら、高品質な農産物を増産し、産地の生産力を維持していくことが重要です。

例えば、果樹栽培ではこれまで、省力化・規模拡大に向け、園内道の整備や傾斜の緩和など生産基盤の整備等を推進してきました。また、ラジコン式の草刈り機や電動運搬車などのスマート農機も徐々に導入されてきました。ただ、これだけでは急傾斜地園の省力化は難しいので、水稲では既に普及されつつありますが、ドローン防除・施肥による省力化技術の導入について今後さらに検討を進めたいと思います。ドローンは個人での導入はコストや技術面から難しいので、将来的に共同での取組や作業委託での活用が中心になると想定しています。平坦地園では、通常よ

り列間を広くとるだけでも様々なスマート農機の活用が可能になりますので、管理しやすい園地へ改造を進めていきます。省力樹形についても検討を進めます。

また、高品質化対策として、優良品種の導入をはじめ、みかんのマルチ栽培等を推進してきました。今後、うんしゅうみかんの「あおさん」など有望品種の産地化を進めるとともに、うめ「南高」と開花期の合う受粉樹の導入・適切な施肥等による安定生産、かきの個性化商品づくりなどの取組をさらに進めます。

野菜・花きの施設栽培では、ミニトマトやいちご、ガーベラなどで環境制御装置の導入が進みつつあります。ハウス内の温度や湿度、二酸化炭素濃度などをモニタリングしながら、農作物に応じて環境を整えることで、高品質多収生産を図ろうとするもので、品目に応じて引き続き導入を推進していきます。併せて、装置が台風などの影響を受けないよう、耐風性を高めたハウスの整備を進めます。また、今後、キャベツやはくさい、ブロッコリー等の露地野菜では、スマート農機等の活用による省力化・規模拡大を推進していきます。現在普及している苗の移植機による定植に加え、農薬散布や収穫、運搬の機械化についてコストを勘案しながら新たな栽培体系の導入を進めます。

将来の和歌山県の農業をどう成長させていくか、農業士の皆様や関係機関とともによく考え、取組を進めていきたいと思っておりますので、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

これまでの私、これからの私

海南市 指導農業士

岡室孝明



1. はじめに

私は昭和 59 年に和歌山県農業大学校（現 和歌山県農林大学校）を卒業し、アメリカへ 2 年間派米農業研修生として、渡米しました。研修を終了して帰国と同時に就農し、当時は父、母、私とで経営をしていました。そして、4Hクラブに加入し、平成 11 年に農業士の認定を請けました。

現在は私と妻の 2 人でかんきつ専作の経営をやっています。

2. 農業経営の特徴

就農当時の我が家の状況は、とにかく樹が密植で大きく、作業性が良くありませんでした。収量的には結構とれていたと思いますが、就農をするにあたり、もっと効率よく仕事ができるようにと考えました。そこで、重機の入るところは園内道を設けたり、改植事業を使い、畑の老木を更新し、新品種等の若木に変えていきました。

父も亡くなり、母もあまり動けなくなり、妻と 2 人で経営していけるように考えます。このため、今も老木で大きい樹は、若木に更新しています。その甲斐あって、全畑の半分以上は若木になっています。最初に植えた樹は、徐々に収量が上がるようになってきました。

今は息子が企業に勤めており、我が家の農業のことはまだ考えていません。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	
極早生	15a
早生	30a
晩生	140a
中晩柑類	48a
合計	233a
○労働力	
私と妻	
臨時雇用	2～3人



整備した園内道

しかし、ゆくゆくは息子も後を継いでくれることを期待しています。そのために少しでも作業効率の良い環境にしていきたいと思っています。

また販売面では、今は個人出荷をメインにしてい

ますが、道の駅も近くにできたのをきっかけに、色々な品種のものを出荷できるように味にこだわり、みんなが安心安全で美味しいと言ってもらえるものを作って行きたいと思います。

3. 今後の経営方針

まず、健康を第一とした農業経営をしていきたいと思っています。私と妻でなんとかやっけていけるよう省力・軽労を実現した経営を目指します。また、世界の情勢が不安定で資材等が高騰している折ではありますが。厳しい中でも創意工夫を凝らし経費節減をしつつ安定した農業経営ができるよう頑張ります。

4. 終わりに

ここ最近、ゲリラ豪雨や線状降水帯、台風等による大きな被害がでています。私の地区も6月2日の線状降水帯発生による被害が多く出ました。こういう自然災害に対して、人の力は無力に近いと思います。

しかし、これを教訓に想定外の事態も考慮し、今できる対処をやっておこうと思います。

また、今は若い世代の人の中にも新規就農をして頑張られる方がいます。新たな発想で、スマート農業を取り入れたりしてすばらしい事だと思っています。新規就農者が一人でも多くなるように、私達がお手本になるような経営をしていかなければならないと思います。

加えて、「下津蔵出しみかんシステム」が日本農業遺産に認定され、タイトルに恥じぬみかんづくりをしようと農業者も心を新たにしています。これを契機に下津みかんの知名度がより高まればと希望を抱いています。



改植により更新した畑



新たに植えたレモン

理想の農業、地域づくりに向けて

紀の川市 指導農業士

辻岡 孝明



1. はじめに

私はある人の助言がきっかけで農業をしようと思ひ、前職の農協の営農指導員を辞めました。その助言は「自分で作ったものは自信を持って販売しなさい!」ということでした。

それから20年余り、農業を始めた頃は経営面積も少なかったのですが、時代の流れで耕作放棄地も多くなり規模拡大も容易になりました。周囲の農家から農地を引き受けていった結果、今の経営面積となりました。そして助言にあったとおり、生産した物を販売していくことにも積極的に取り組んできました。

2. 農業経営の方針と状況

私の生産へのこだわりは消費者の嗜好に合った物を作ることです。具体的には、早生みかんの完熟栽培。浮皮対策を万全にして品質が十分向上してから収穫するようにしています。

生産物は、昔から荒見地域にある「農事組合法人共栄出荷組合」を通して販売しています。JA紀の里とも協力関係にあり、系統の販売力を活かしての有利販売を実現できています。何を隠そう、現在私はこの出荷組合の代表理事を務めています。

「共栄出荷組合」は、大正12年に地域の農家がみかん等の生産物の利益を産地商人から農家の元に取り戻すことを目的に「共栄農事改良実行組合柑橘部」として創立し、その後「共栄柑橘出荷組合」へ

農業経営の概況

○作付品目と面積	
柑橘	280a
柿	200a
桃	120a
○労働力	
本人	300日
常雇い	2人計 600日
臨時雇用	延べ約 300日

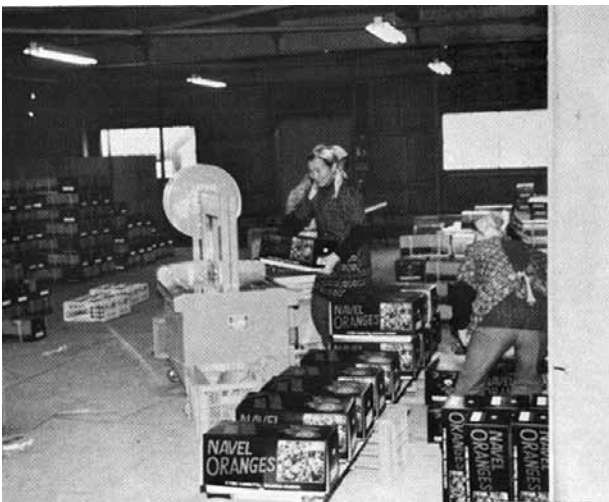
と改組されてきました。

現在は農事組合法人共栄出荷組合として地域の農家約120戸の組合員で組織されています。

この間、温州みかんに始まり、ネーブルオレンジ、早生みかん、八朔など、品目や品種は変遷しながら、今では桃やキウイフルーツなどの落葉果樹も含めて、年間取扱量は柑橘類で870t、落葉果樹で650t程度となっています。



改植により増殖中のきゅうき



ネーブルの荷造り風景



八朔のネット入れ風景

3. 今後の経営方針

今年、我が共栄出荷組合は前身の創立から100周年を迎えました。県内では一番古く、全国でも二番目に古い創立と聞いています。

写真は100周年記念式典の様子です。組合員家族や市場関係者など計160名が参加し、龍門地区の歴史映画の放映や最後には餅撒きをして100周年を祝いました。

先輩達が歩んできてくれたこの長い道のりを今後も大切に、自分たちで作った物は自信を持って販売していくことで、より長い組合の存続を目指して行こうと思います。



創設 100 周年記念式典

4. おわりに

これからの農業は、地球温暖化により高品質な農作物が作り難くなっていくでしょう。これらの課題を克服するためには、“農業”から“脳業”への時代の変化が来ると考えています。

持続可能な農業の実現を目指して、今後も会員同士が知恵を出し合い、これからの農業を我々農業士が引っ張っていきましょう。

柿への想いと取り組み

九度山町 地域農業士

海堀善照



1. はじめに

私は、平成7年に県農業大学校を卒業後、精密機械製造会社に2年間勤め、平成9年に就農しました。

父の代から柿中心の経営であり、就農した当時は、父母や近隣の先輩方に教えてもらいながら柿づくりに取り組みました。平成9年から九度山町4Hクラブに、平成19年からJA青年部に加入し、先輩農家や盟友と話し合いながら、栽培技術を磨きました。

令和2年に父から経営を移譲され、現在は私を中心に柿づくりに頑張っています。

2. 農業経営の特徴

我が家では、柿を中心とした経営をしています。主力品種は富有と刀根早生です。年間労働時間の均等化を図るため、経営の一部に夏果実を導入しています。平成15年には柿の早期出荷を目的に、極早生品種の中谷早生を導入しました。柿の栽培ほ場は九度山町を中心に、五条市の小島パイロットでも80aを栽培しています。いずれのほ場においても、省力化を目的に園内道を整備し、スピードスプレーヤーの導入を行っています。また、低樹高化と間伐等を進め、作業能率の向上を図っています。主な出荷先はJAですが、「柿の木オーナー制度」と「富有柿の宅配」にも力を入れています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿	300a
うち刀根早生	120a
中谷早生	30a
富有	150a
すもも	30a
小梅	30a
○労働力	
家族	3人

父の代から「柿の木オーナー制度」に取り組んでおり、毎年、富有柿の季節になると、九度山町のブランド柿を求め、多くのお客様が来場されます。「柿の木のオーナー制度」は、一般社団法人九度山町柿の里振興公社が窓口となり、オーナーの募集を6月中旬～8月中旬に、9月に選木会を行います。オーナーは現地で自分の木を選び、木に名札をつけます。柿の木1本28,000円ですが、1本の木で約200個の富有柿が収穫できるため、リピーターも多く大変人気です。我が家では、自家用車の乗付けできるほ場の富有柿40本で受入れをしています。「富有柿の宅配」も大人気で、大阪方面を中心に例年100件程度を発送しています。

さて、柿を栽培していて困るのが鳥獣害対策です。特にシカは防護柵や電気柵を簡単に飛び越えてきます。その対策に頭を悩ましているときに、五条市で

は防護柵の高さを2mにして被害を防止していました。それを見て、平成28年に小島パイロットのほ場に高さ2mの防護柵を設置したところ、被害が大きく減少しました。これは良い方法だと思い、平成29年には九度山町のほ場にも自己資金で高さ2mの防護柵を設置し、シカの被害を防止しています。

3. 今後の経営方針

近年は農業用資材や燃料が高騰し、経営に悪影響を与えています。生産コストが増大する中、我が家の経営でも販売価格に転嫁できていない状況です。そこで、今後の経営方針としては、販売単価の向上を図るため、宅配の数量を増やしていきたいと考えています。宅配の場合、出荷にかかる経費と労力が従来のJA出荷よりも増加しますが、販売価格の向上により収益性の向上が期待できます。

JAへの出荷では、お客様と直接話をする機会は

あまり無いのですが、「柿の木オーナー制度」と「富有柿の宅配」は、お客様と農家が直接繋がるとても良い取り組みです。お客様に今年も良い柿だと喜んでもらえるのでやりがいがあります。今後もお客様一人一人を大切に、柿づくりに頑張っていきます。

4. おわりに

富有柿は九度山町のブランド品目であり、私も富有柿の栽培にこだわりがあります。園地の改良等で省力化と効率化に取り組むとともに、高品質な富有柿の栽培に取り組んでいます。

私は就農した当時から、父母や近隣の先輩農家、地域の若手、いろんな方々と話し合いながら、技術や考え方を身に付けることができました。今後も人と人のつながりを大切に、これらの技術を地域の若手に繋いでいきたいと考えています。



柿の摘果作業



整備した園内道



スピードブレイヤー



防護柵

限られた農地での所得安定を目指して

有田川町 指導農業士

谷 畑 進



1. はじめに

私は高校を卒業後、民間企業へ就職しましたが、24歳でUターン就農しました。就農当時、両親は有田川町（旧金屋町）の中山間地域に位置する農地で、温州みかんとししとうの栽培を行っていました。しかし、限られた面積で収益を上げる必要があると考え、施設でのスプレーギク栽培に取り組んできました。栽培を始めた当初は、旧金屋町での生産者は3名ほどでしたが10年後には36名となり、同じ品目を作る仲間も増えました。

息子が就農後は、スプレーギクの栽培を任せ、私はみかん作りに集中しています。また、水田をウメに転作し、少ない面積でもやりくりできる農業に取り組んでいます。

2. 農業経営の特徴

私の住む地区は標高300m程度あり、有田地域の中では比較的冷涼な山間部に位置しています。温州みかん園は急傾斜地であるため、作業も大変ですが収穫は家族総出で行っています。近年は、温暖化の影響もあって、就農当時とくらべるとみかんの品質が向上していると実感しています。当初から共選出荷を行っていますが、部会の方針に沿った品質を目指し、他の地区に負けないよう平均以上の点数を採ることを毎年の目標にしています。

スプレーギクの栽培技術は就農後、旧金屋町や旧

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	70a
うち極早生	5a
早生	30a
普通	35a
スプレーギク	25a
うめ	10a
キウイフルーツ	5a
○労働力	
家族	3人

打田町の先輩農家から学び、一時は35aまで面積を拡大しました。現在は25aで経営を行っていますが、5棟のハウスのうち4棟を3作で、1棟を2作で、少しずつ作期をずらしながら年間20品種程度を周年供給できるようにしています。そのため、毎月の収入があり、1年を通して安定した収入を得ることができます。



急傾斜の温州みかん園



作物の異なるスプレーギク



スプレーギクハウスとキウイフルーツ園

3. 今後の経営方針

私の住む地区でも、イノシシやシカの被害が多発しています。その対策として、個人ではわな資格の取得を、地区の農業グループでは食肉解体業や販売業の資格を取得しています。これらのジビエ加工品を直売所などで販売し、中山間地の限られた農地を守りながら、今後も農業を続けていきます。

息子は農業を引き継いでくれましたが、孫にも同じ場所で農業を引き継いでほしいと願っています。そのために、急傾斜地の温州みかん園を集約するとともに老木園の改植を進めていく予定です。また、狭い土地でもさらに収益性の高い作物の導入を検討していきたいと考えています。

4. おわりに

農地の立地条件は場所によって差はありますが、代々引き継いできてくれたことに感謝し、それを引き継げた自身も恵まれていると感じています。子供たちには中山間地であっても、当たり前にある農地で営む農業に誇りをもってもらいたいと思います。

そのために、条件の悪い農地であっても私自身が自信をもって、良い農地に恥じない農業をやっていく必要があります。そうすれば、息子たちのような若手の後継者にも農業の魅力が十分伝わると信じています。

また、後継者の息子が就農した際には農協出荷以外の販路の拡大、法人化、加工品づくりを検討しています。

平成22年に地域農業士に認定されてから、たくさんの方々とは知り合いになれ、意見交換を通して私自身成長できたと感じています。

今後も、地域の方々とは協力しながら有田の農業を発展させていきたいと考えています。

「エコファームめだか」が目指す経営 ～他農家と違った栽培でファンを集客 消費後継者づくり～

日高川町 指導農業士

清水 俊 夫



1. はじめに

私は、和歌山県農業大学校（現：和歌山県農林大学校）を卒業後、和歌山県職員（主に農業改良普及員・試験研究員・県産品販売（マーケティング）など）を行った後、家業のしめじ生産（ヒラタケ種）菌床栽培を引き継ぎ就農しました。当初は、郵パックのサポートや斡旋に、農家民泊や体験農業、他農家の支援と、多岐に渉る経営を行ってきました。水害や母の高齢化、コロナなど経営に影響することが続く中で、経営内容も少しずつ転換しています。

2. 農業経営の特徴

私が就農すると同時に「エコファームめだか（屋号）」を始めました。同じ作物を栽培しても、「エコファームめだか」の農産物はおいしい、と言ってもらえる商品づくりを増やしていきたいと考えています。

3Kが農業離れを起こしている反面、有機栽培への関心度が増している部分もあります。完全有機が良いとは決して思いません。多くの方が美味しいと認めてもらえ、経営を向上させることができ、自身で価格設定ができる農産物を増やしていきたいと計画しています。その背景には、作物一つひとつに物語があり、「エコファームめだか」が目指しているメダカの住める環境で農業、を軸に考えています。

将来の後継者に夢のある農業？と、感じてもらえ

農業経営の概況

○作付品目と面積	
しめじ（ヒラタケ種）（施設）	10 a
梅	30 a
栗	30 a
水稻	8 a
金時人参	20 a
南瓜	6 a
山芋	7 a
その他露地野菜	50 a
〔ほうれん草・大根・胡瓜・枝豆〕	
〔じゃがいも・とうもろこし〕	
〔ししとうがらし・ピーマンなど〕	
・令和5年から増反	
梅	17a
不知火	21a
YN 26（極早生みかん）	3a
ゆら早生	20a
ゆら早生（R5 接木）	5a
ゆら早生（R6 新植）	17a
宮川温州	10a
○労働力	
家族	3人

る経営に向け奮闘しているところです。まだまだ、駆け出しですが目標に向け進んでいることだけは確かです。

（間違っているかもしれませんが？）

3. 今後の経営方針

現在、労働力は家族3名となっていますが、母は80歳を過ぎています。労力として完全に限界をオーバーしていると思われます。私は、まだ人に任すという事をしたことが無いので、少しずつパートの導入を検討していきたいと考えています。

本年から増反した経営と合わせ、5年後には収穫できていると予想されるゆら早生について、パート導入を柱に経営改善を進めることで、めだか農園のファンを増やし将来の消費後継者づくりを確立して行ければと考えています。

また、県内で唯一となっているしめじ栽培(ヒラタケ種)です。加工品(佃煮)を主力に販売していますが6次化オンリーから生キノコの販売も行えるくらい生産拡大を図ることで、新たなものがたりを作っていけたらと思います。

美味しさの種(たね)とも言える自家製有機堆肥についても、5t/10aを基本に使用していますが、近年の肥料高騰で畜産糞尿が品薄になってきました。増反に併せ有機堆肥作りも手を抜かず進めて行きたいと思っています。

4. おわりに



しめじ佃煮



農産物販売所



堆肥散布

私の地区は、山に囲まれ川に仕切られた、県内でも農業に適地と言える場所では決して無いと思います。高齢者が地域農業を支え継続しようと奮闘しています。私はできる限りこの努力を応援しながら地域農業振興に向けた取り組みを探っていければと考えています。

この地区にあった振興策で地域のものがたりが将来の消費後継者に繋がることを期待して自己研鑽や地域貢献になればと思います。行政マンとして得た知識と人脈で県産農業の振興と後継者育成を支援していきたいと思っています。と、同時に行政に対する要望や提案など積極的に働きかけていきたいと思っています。

大好きな農業を楽しく続けたい！

田辺市 指導農業士

芝峰理恵子



1. はじめに

私は、「帯に短し、タスキに長し」のような小さい農家に生まれ、子供の頃から野菜や米の作業を手伝うのが楽しかったのを覚えています。

温州みかんや水稲を栽培し、縫製業も営んでいた夫と結婚し、私自身も縫物ができたので、子供の世話をしながらいろいろ作業を手伝いました。

時代の流れで縫製業をやめることになり、その当時温州みかんの価格が低迷していたことから、水田に梅を植え、新たに借りた水田で、水稲と野菜を栽培しました。

2. 農業経営の方針と状況

将来のことを考えると、作業の省力化が必要だと思い、25年前に温州みかん園と梅園に防除用のスプリンクラーを導入するとともに、古くなっていたモノラックのレールとそれに合う本機を更新しました。

梅は除湿乾燥機を導入し、すべて青採りしていましたが、作業が追い付かなくなってきたことから、ネットを敷いて加工用の出荷も始め、収量の少なくなってきた樹は改植しています。

温州みかんは、以前有利に販売できていた「宮本早生」から「ゆら早生」に更新し、マルチ栽培に取り組み、糖度の上がりにくい園地では「不知火」や「せとか」等の中晩柑を栽培しています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	150a
柑橘類	80a
うちゆら早生	20a
不知火	15a
せとか	5a
その他	40a
水稲・野菜	50a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	3人



梅用の除湿乾燥機



ゆら早生のマルチ栽培

これらにより、梅の収穫時に短期間の雇用はするものの、ほぼ家族労力で対応しており、私が直売所向けの野菜関係、夫が草刈りや施肥全般を行い、薬剤散布や梅の剪定、みかんのマルチ敷きは2人、収穫や中晩柑の袋かけは3人（息子の休日時）で対応しています。

また、15年ほど前から収穫前になるとイノシシがやってくるようになったため、収穫前に電気柵を設置しており、今のところ被害はほぼありません。



改植園も含めて張り巡らされた電気柵

3. 今後の経営方針

水田に植えた梅が順調に生育し、ミツバチの活動を促進するという資材を試したりしながら、収量が増加してきたため、温州みかんから梅主体にシフトしようと思っていた矢先、価格が下落し先行き不透明な状況となっています。

私達と同じく、水稻関係の農機具も年を重ねてき

ていることから、労力配分を考え、収穫時期の違う特徴のある柑橘類の栽培や野菜の年間作付け計画を考えていきたいと思っています。



ミツバチ活動促進資材の試用



年間を通して直売所に出荷

4. おわりに

今年度をもって、指導農業士の定年を迎えることとなりました。

農業士の仲間に入れていただき、特に女性部会の方には、定期的な会議等の際に、農業のことだけでなくいろいろなことを教えていただき、梅の消費PRや出前授業等、楽しく活動することができたこと、お礼申し上げます。

これからも、気力体力の続く限り、夫婦で楽しく農業を続けていきたいと思っております。

農業に懸ける想い

～就農 2 年目の私が伝えたいこと～

和歌山県 4 H クラブ 連絡協議会

井戸 佑輔



1. はじめに

私は海南市下津町出身で、実家は兼業農家でした。現在は父が退職し、専業農家となっています。高校卒業後、愛知県の大学に進学しそのまま服飾関係に就職しました。17年勤めたのち自分の将来を考える機会があり、様々な業種を調べていた時に両親が農業へ設備投資してくれていた事と、和歌山に帰ってきた事もあり36歳の時に未経験で親元就農を始めました。現在は約20種類の柑橘をメインに、ブルーベリーも栽培しています。

2. 農業への想い・取り組み

学生時代には農業に関してはしんどそう、汚れる、働き方のイメージが湧かない、オシャレな働き方ではないなど、かなりネガティブな印象を持っていました。実際に社会経験を積んでみると、しんどくない仕事なんてないぞ、サラリーマンも汗かくぞ、いくら外面オシャレでも中身おもしろくない仕事もあるぞといった事が分かりました。

ただ、農業に対してもいきなりイメージが良くなった訳ではありません。実際私は就農2か月ぐらいいなると家と畑の往復だけ、夜遊ぶところもない地域、そして遊ぶ年代もない。一言でいうと仕事以外に価値が見出せず退屈でした。

とにかく人との繋がりが欲しい、どんな考えや方法で栽培しているかなどの情報が欲しい。そんな時に4Hクラブという若手農家の集まりがあることを知りすぐ入会しました。農家は、働く時間や栽培方

農業経営の概況

○作付品目と面積	
柑橘約20種類	150a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	2人

法も自分で結論を出し自分の責任で行う事が出来ませんが、迷う時もあります。地域に相談出来る仲間がいるだけで非常に心強いです。これから新規就農を始める方にお伝えしたいのは、「環境は整っているので、あとは自分がその輪に入ろうとするかしないかで農業(仕事)に対してのハードルの高さは全然違って来る」ということです。



2. 今後について

私は今年5月から、親元就農をしながら地域にあるキャンプ場の管理人もしています。キャンプ場の理念は【農家とつながるキャンプ場】です。キャンプ場に来られた方に海南市の地域資源の魅力や農業の魅力をお伝えし、新しい農家仲間が増える事が地域の活性化にもつながり、より楽しく農業が出来ると考えています。農家に興味がある方にもぜひ来て頂き、就農時のサポートもできればと考えています。

農業に懸ける想い

「農業後継者を残すために」

紀の川市 青年農業士

風呂谷 康嗣



1. はじめに

私は写真にあるように紀の川を眺める地域を主に果樹を栽培しています。

私が就農したのは大学3回生の時に祖父が体調を崩したことがきっかけです。4回生の時は取得しなければならない単位も少なかったので下宿を引き払い、自宅から就活と農業の手伝いをしていました。手伝いをしている間に、「この農業を継がないといけないのかな」と感じ就農しました。

2. 農業への想い、取り組み

就農時は今より1ha程大きい規模を管理しており、休みが少なく体力的にもきつい状態でした。就農後は、親が思うようにやらせてくれたので、傾斜のきつい園地や生産性の劣る園地を廃園にし、平坦部の園地を借りるなどして規模を縮小しても収益を上げられる経営を実現してきました。今はキウイフルーツが儲け頭で労働力が確保できればもっと栽培規模を拡大したいくらいです。

ですが、農業の成果は気象に左右されやすく、サラリーマンと違い組織が守ってくれる仕事ではありません。農業が増えるためにはもっともっと儲かる産業にならないといけないと思います。

私には3人の男の子がいますが、その誰かに農業を継がせようとは思っていません。ただ、「農業を継ぎたい」と言ってくれる子がいれば継がせようと思っ

農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿	250a
キウイフルーツ	120a
柑橘	40a
○労働力	
父母、本人、妻 +臨時雇用	計4人

ています。そのため、継ぎたいと思われるような農業を実現することが私の目標です。



赤沼田からの紀の川の眺め



キウイ園と生命線の灌水パイプ

農業に懸ける想い

省力化に取り組み、楽しみながら働く

九度山町 地域農業士

西 峯 宏 典



1. はじめに

私は父を早くに亡くし、母が一人で苦勞して働いているのを見て、高校を卒業後すぐに就農しました。当時はかき以外にもみかん及びすもも、水稻を栽培しており、果樹中心の複合経営でした。就農当時は刀根早生が有望品種であり、かき中心の経営に轉換するため、みかんやすももをかきに改植し、従来の富有柿も刀根早生に接ぎ替えました。

現在は、九度山町とかつらぎ町にかき園地 190a を保有し、かき専作農家として取り組んでいます。

2. 農業への想い・取り組み

私は、JA紀北かわかみの組合員として、約 40 年間の栽培に取り組んできました。これまでの主な出荷先は、JA選果場とやっちゃん広場ですが、最近ではふるさと納税の返礼品のかき栽培も請け負っています。

さて、我が家の園は町をまたがり、結構な面積があります。そこで、栽培管理作業の省力化を図るため、順次農機具類や倉庫等に投資してきました。

10 年以上前には薬剤散布の作業負担を減らすため、乗用型の防除機（スピードスプレイヤー、以下「SS」）を購入しました。SSは、公道を走れるようにナンバープレートを取得しており、各園地の防除に出かけます。片道で約 30 分かかるとかつらぎ町の園地には、周辺地域に迷惑をかけないように早朝に出発し、交通量が増える時間帯までに防除を終えて帰ってきます。

他に軽トラや小型運搬車を 2 台保有し、収穫物の運搬作業等に活用しています。また、これらの農機具が安全に走行できるよう、各園の園内道の整備

にも取り組んでいます。

なお、2 年前には倉庫を建て替え、昨年は、乗用草刈り機を購入しました。

これまで、管理作業の省力化や効率化を目的に、農機具の導入や園の整備を行ってきました。省力化で作業が楽に、効率化で時間に余裕ができると、家族の健康や自分の時間を大事にすることができます。

また、先人たちが体力と英知で切り開いてきた地元産地を、省力化で楽しい魅力ある産地として、後世に引き継いでいきたいと考えています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿	190a
うち極早生	20a
刀根早生	70a
平核無	20a
富有	80a
○労働力	
家族	3 人
臨時雇用	2 人



SS と乗用草刈り機



作業場と農機具の倉庫



かき園と SS 進入路

農業に懸ける思い

農業経営の継承と新たな経営形態への挑戦

湯浅町 4Hクラブ
畑 篤 志



1. はじめに

私の住む湯浅町田地区は、海に面した段々畑が多く、水はけが良好です。太陽の光もよく当たり、海からの潮風が影響して、気候が温暖で、高品質なかんきつが生産できます。

私は、平成30年3月に国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門興津カンキツ研究拠点常緑果樹研修コースの研修を修了後、すぐに就農しました。

また、親の勧めもあり令和4年に農業経営を継承し、経営管理の合理化と規模拡大等を進めるため農業法人を設立しました。

2. 農業への思い・取り組み

私は、子供のころから親のかんきつ栽培を見たり、手伝いながら育ってきました。

いつかは、代々続く農業経営を継承することを考えていましたが、継承だけではなくさらなる経営の発展を目指しています。

具体的には、高品質なレモンを安定して生産するため2連棟のビニールハウス3棟、合計25aを新設し、令和6年2月に植栽する予定です。

また、現在の市場出荷中心の販売方法に加え、消費者との距離を縮め、高品質で新鮮な果樹を直接消費者に届けることを目的に、インターネット販売を始めました。今後はさらに販路を拡大する予定です。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
極早生温州	48a
早生温州	46a
晩生温州	13a
レモン	31a
バレンシアオレンジ	73a

今後は、経営の合理化と栽培管理の省力化をさらに進め、年間労働時間を短縮して週休2日のゆとりのある農業経営を目指していきたいと考えています。

農業は体にかかる負担は大きいです。しかし、自分で考えその考え通りに樹が反応し、また、変化が目に見えて表れた時はうれしく、大変やりがいを感じています。



新設したレモンハウス

農業に懸ける思い

これからの農業

印南町 青年農業士

新谷 力



1. はじめに

私は南部高校園芸科を卒業後、18歳で就農しました。当時、私の住む印南町真妻地区では、千両や小菊が多く栽培されており、我が家でも千両、小菊、豆類、なのはなを栽培していました。

また、農協青年部や4Hクラブで活動しており、今年度には青年農業士に認定されました。先輩方のアドバイスもあり、現在モロヘイヤ、菊芋、なのはなを栽培しています。

2. 農業への思い・取り組み

菊芋は2015年から栽培をはじめました。管理が他の作物に比べて楽で、ほぼたい肥で生産できることから経費が抑えられることが特徴です。菊芋の収穫は秋から冬にかけて行いますが、消費を伸ばすためにも年間を通して食べられるように工夫する必要があると考え、知人と加工品の開発に取り組みました。現在では菊芋コロッケ、ポタージュなどができ、今後も生菊芋出荷と同様に、加工品の開発、販売にも力を入れていきたいと考えています。

なのはなは、昔から栽培しています。以前の出荷作業は非常に手間がかかり、多く栽培できませんでした。農協の出荷形態が変わり、コンテナによるバラ出荷が可能になったので作業が楽になり栽培面積の拡大ができるようになりました。

現在は、JA紀州葉菜部会のなのはな専門部長を

農業経営の概況

○作付品目と面積	
モロヘイヤ	25a
菊芋	40a
なのはな	30a
○労働力	
家族	

務めており、栽培方法の確立と収益を上げる方法を模索し、なのはなの推進に努めています。

最後に、現在2人の子どもに恵まれ、妻と2人で農業をしています。子ども達には農業や食、地域の風景を守る大切さを伝えていき、これからも農業に励みたいと思います。



モロヘイヤ



菊芋

農業に懸ける想い

地域・仲間とのつながりを大切に

上富田町 青年農業士

前田 純 志



1. はじめに

私は高校卒業後、大阪中央卸売市場内の仲買業者で働いていましたが、家の農業を継ぐのは末っ子の私だけの状況だったため、それなら早いほうが良いと思うようになり、24歳の時に就農しました。

2. 農業経営への想い・取り組み

我が家は、梅・温州みかんとハウスすももを栽培していますが、就農時は梅の価格が低迷し、早生みかんの老木園も多かったことから、改植に取り組みました。

JA青年部、町の4Hクラブや農業後継者グループの活動に参加して多くの人と知り合い、温州みかんの新品種や栽培技術などについて話を聞き、今後の経営の参考にしました。

極早生みかんの面積を増やし、「YN26」のマルチ+点滴かん水栽培にも取り組み、西牟婁地方の栽培実証園として、関係者の方々に高品質安定生産に向けた指導をいただきました。

現在40歳となり、父母は70歳を過ぎたことから、すべて手作業で行っている薬剤散布のスプリンクラー導入や、高齢化している雇用者から新たな人材への円滑な引継ぎを計画的に実施したいと思っています。

梅の安定生産や温州みかんの高品質化の栽培技術にはまだまだ課題があり、生産資材の高騰など厳しい状況は続いています。就農当初からお世話になっ

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	200 a
温州みかん	70 a
うち極早生	52 a
すもも	13 a
水稲	20 a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用(梅収穫時)	7人

ている地域の先輩や同世代の後継者、JAや町、県の方々とつながりを大切に、帰ってきて良かったと思える楽しい農業を実践していきたいと思っています。



YN26のマルチ栽培園



栽培実証の取組(平成25年～)

県農林大学校生です。

～農林大学校1年生の自己紹介&近況報告～

農学部 園芸学科



農林大学校1年の植田智裕です。出身地は紀の川市です。高校は紀北農芸高等学校を卒業しました。

私が農林大学校に入学を決めたきっかけは、農業の知識と技術を向上させたいと思ったこと、トラクターの免許や危険物などの資格を授業として受検できるのがとても魅力的だと感じたことです。

将来の夢は、自分の土地を持ち、好きな作物を栽培できるように計画を立てたいです。学校で頑張ることは、資格取得です。



私は湯浅町出身で、高校は有田中央高校に通っていました。高校では、農業系列を選び、果樹、野菜、花の3つの教科で実習などを学んできました。

祖母がミカン農家ということもあり、もっと農業について勉強し、家のミカン栽培をいつか継ぎたいなと思い、農林大学校に進学しました。

大学校では果樹コースを選択しました。いろいろな事を学び、将来に役立てていきたいです。この大学を卒業したら、農業関係の会社に就職しようと考えています。

私は、勉強が苦手ですが2年間頑張って色々な資格を取得したいです。



私は湯浅町出身で、家ではミカンを栽培しているミカン農家です。

農林大学校に入学した理由は、小さい頃からミカン畑に囲まれた地元で育ち、農業に興味を持っており、果樹について専門的に学びたいと思ったからです。

学校では、色々な資格を取得し、果樹の技術や知識を習得していきたいと思っています。

卒業後は、実家の農業を継ぎたいと思っています。そのために、2年間授業や実習を頑張り、立派で一人前の農家になれるよう、日々努力をしていきたいと思っています。

私は大阪府寝屋川市出身で、大阪では普通科の高校を卒業しました。農林大学校に入学した理由は、小学校の授業で経験した農業体験と知人からの紹介がきっかけで、作物を自分でも育ててみたいと思ったからです。

私は果物がとても好きなので、現在は果樹コースで果樹について学んでいます。将来の夢は、放置されている農地を活用し、色々な品目を栽培する農家になることです。

学校で頑張りたいことは、この学校ではたくさんの資格に関する授業があるので、それら全てを取得することです。また、私は普通科の高校を卒業しており、専門的な知識が不足しているため、特に果樹の知識を深めたいと思っています。



尾田大聖

.....



小野田翔太

私は和歌山市出身の小野田翔太です。高校は和歌山東高校です。農林大学校に入ろうと思った理由は、高校生の頃の農林大学校のオープンキャンパスで食べたブルーベリーがおいしかったのがきっかけです。でも、実習をしているうちに花に興味を持ち花コースを専攻しました。

将来のことはまだ決まっていませんが、ここでの経験を活かしたいと考えています。私は学校で農業の知識を身に付けるのはもちろんですが、たくさんの人とコミュニケーションをとり、楽しく学びたいと思っています。

.....

私は有田市出身で、和歌山工業高校の電気科を卒業しました。高校入学までは将来の事を全く考えておらず、親の勧めで就職に強い高校に入学し、高校3年間で自分のやりたい事を見つけようと思っていました。その3年間で私は、小さい頃から手伝っていた農業にやりがいを感じたため、農業関係の専門学校か大学に進もうと思い、この農林大学校に入学しました。

将来は、祖父のみかん農園を継ぎたいと思っているので、この2年間で、柑橘系の知識をしっかりと身につけていきたいと思っています。



貝野 亘

試験研究レポート

REPORT

水稲新奨励品種「にじのきらめき」の特性と栽培技術

和歌山県農業試験場 栽培部 川村 和史

1. はじめに

近年、出穂期以降の高温条件により米の品質低下が大きな問題となっています。これまで高温下において白未熟粒（乳白粒、基部未熟粒、腹白粒等の総称）の発生が少ない品種として「つや姫」、「きぬむすめ」、「にこまる」を県主要農作物奨励品種に採用してきました。令和4年3月に新たに農研機構中日本農業研究センター北陸研究拠点で育成された「にじのきらめき」が同奨励品種に採用されたので本品種の特性と移植期、施肥量について紹介します。

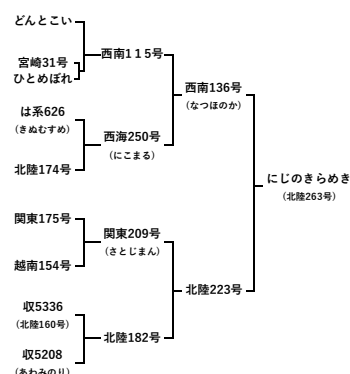


図1 系譜図

2. 来歴

高温耐性に優れた「西南136号(なつほのか)」を母とし、極良食味の「北陸223号」を父とし2009年に交配(図1)。その後、個体選抜等を行い2022年に品種登録されました。本県では2016年から奨励品種決定調査予備調査、2019年からは生産力検定調査、併せて県内現地において適性を検討してきました。

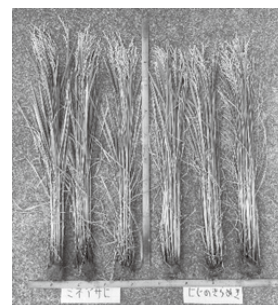


図2 「にじのきらめき」の草姿

3. 「にじのきらめき」の特性

- 1) 稈長は70cm程度で「キヌヒカリ」より約11cm短く、穂長は20cm程度で「キヌヒカリ」より約2cm長く、穂数は324本/m²程度で「キヌヒカリ」より30本程度多いです(表1)。
- 2) 出穂期は「キヌヒカリ」より2日遅く、成熟期は5日遅い「ミネアサヒ」と同熟期(表1、図2)。

表1 「にじのきらめき」の生育と玄米収量、品質

品種	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/a)	玄米収量 (kg/a)	対照比 (%)	玄米 千粒重 (g)	玄米 整粒率 (%)	倒伏程度 (0~5)
にじのきらめき	8.12	9.19	70.1	19.8	324	56.0	111	23.5	67.8	0.0
対) キヌヒカリ	8.10	9.14	81.4	18.1	296	50.4	100	22.1	63.2	0.5
参) ミネアサヒ	8.14	9.19	76.3	19.4	336	52.4	104	20.4	-	0.1

注) 数値は2016年~2021年の平均値。移植期は6月14日(平均)。

玄米整粒率は穀粒判定機(静岡製機ES-1000)で測定。倒伏程度は0(無)~5(甚)の6段階。

- 3) 玄米収量は「キヌヒカリ」に比べて11%程度多く、千粒重は23.5gと重いです(表1)。
- 4) 玄米は整粒率が「キヌヒカリ」より高く、玄米品質は「キヌヒカリ」より優れています(表1)。
また、タンパク含有率やアミロース含有率が低く、食味値は高いです(データ省略)。
- 5) いもち病真性抵抗遺伝子型は“Pia,Pii”と推定され、葉いもち圃場抵抗性は「キヌヒカリ」と同等の“中”、穂いもち圃場抵抗性は“やや強”です。縞葉枯病抵抗性は“抵抗性”(キヌヒカリは“罹病性”)を有します。穂発芽性は“難”で優れています(データ省略)。

表2 移植期が生育、玄米収量および品質に及ぼす影響

試験区	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	玄米収量 (kg/10a)	玄米整粒率 (%)	白未熟粒率 (%)	日平均気温※ (°C)	出穂後の平均 気温積算値 (°C)
5月25日移植	7.30	9.5	728.2	61.8	31.0	29.9	1106
6月8日移植	8.8	9.14	726.4	68.8	26.6	29.4	1086
6月15日移植	8.11	9.20	752.1	68.4	27.2	28.8	1157

注) 玄米整粒率は穀粒判定機(静岡製機ES-1000)で測定。

※印: 出穂後20日間の日平均気温の平均。

出穂後の平均気温積算値は和歌山気象台観測の日平均気温を積算した。

表3 施肥量が生育、玄米収量および食味に及ぼす影響

試験区	稈長 (cm)	穂数 (本/m ²)	一穂粒数 (粒/穂)	m ² 当たり粒数 (千粒/m ²)	玄米収量 (kg/10a)	タンパク質 含有量(%)	食味値 (point)
8kg	72.6	391.4	80.8	31.6	680.3	6.4	75.2
10kg	72.8	413.5	83.8	34.6	726.4	6.6	73.5
12kg	76.1	420.9	84.9	35.7	727.8	6.9	70.3

注) タンパク質含有量、食味値はサタケ社製米粒食味計(RLTA10B)により玄米を測定。

4. 高品質安定栽培技術 ～移植期と施肥量について～

移植期の早晚による玄米収量の差はほとんどなく、いずれの移植期においても高い収量が得られました。しかし、5月25日移植では乳白粒等の白未熟粒の発生が増加し、玄米整粒率が低下しました。出穂後の気温が高く推移したためと考えられました(表2)。

10a当たり施肥量を窒素成分8kg、10kg(標準)、12kgの3水準で検討した結果、施肥量を多く施用すると生育が旺盛となり玄米収量は多くなりましたが、10kg区、12kg区では同程度でした。施肥量を多くすると玄米のタンパク質含有量が増加し、食味値は低下したことから、施肥量は10a当たり10kg(標準)が良いと思われます。

5. 栽培上の留意点

「にじのきらめき」の適地は県内全域の平坦地～中山間地と考えられ、特に「キヌヒカリ」の外観品質低下が問題となっている紀中～紀北地域の平坦地での普及が望まれます。

極端な早植えや多肥栽培を避けることで玄米品質が高まります。

いもち病に対する抵抗性は中程度のため、一般的な防除が必要となりますが、縞葉枯病に対して抵抗性を有するので、被害が懸念される地域でも栽培適性があると考えられます。

カキの輸出を可能とする鮮度保持技術の開発

果樹試験場かき・もも研究所 主任研究員 熊本昌平

1. はじめに

本県ではカキ‘刀根早生’の海外への海上輸送による輸出を推進しています。主な輸出先は香港、タイ、シンガポールなどの東南アジア地域で、‘刀根早生’を中心とした輸出が行われています。さらに米国へのカキ果実の輸出が解禁され、新たな市場として期待されています。米国へ輸出では海上輸送に3週間以上の低温輸送期間を要し、現地到着後に低温障害による軟化が問題となります。そこで、‘刀根早生’の米国への海上輸送を想定した鮮度保持技術の開発に取り組みました。



写真1 輸出したカキの販売

2. 試験研究の内容と結果

(1) 海上輸送における1-MCP処理の鮮度保持効果

果実の成熟を促進するエチレンの作用を阻害する1-MCP（1-メチルシクロプロペン）を処理した果実の海上輸送後の鮮度保持効果について検討しました。10月3日に収穫した‘刀根早生’をCTSD脱渋(CO295%以上、25℃、16時間)と1-MCP(1ppm)処理を同時に実施し、収穫2日後に防湿段ボール箱(透湿度100~150g・m⁻²・24h⁻¹)に箱詰めし、25℃で静置しました。収穫3日後に0℃に設定したリーファーコンテナ(冷却装置付輸送容器)に搬入し、収穫29日後まで保存し常温に置きました。収穫30日後に段ボールから取り出して25℃で保持し、果実の軟化率を調査しました。

また、無処理区はCTSD脱渋のみを実施し、その他は処理区と同じ管理を行いました。

調査の結果、軟化率は無処理区で25℃移行(収穫後30日目)後3日目から増加したのに対して、1-MCP処理区で移行後6日目を0%、9日目を10%に抑制できました(図1)。

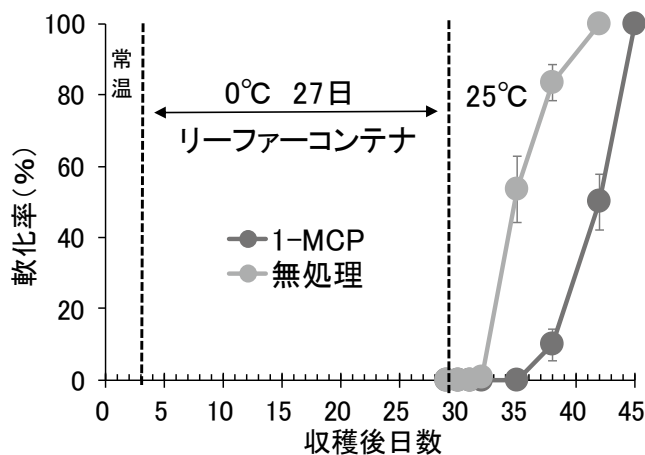


図1 リーファーコンテナを用いた実証試験
誤差線は標準誤差(n=3)

(2) 海上輸送中の温度管理

海上輸送に適した温度管理について検討しました。9月29日に収穫した‘刀根早生’をCTSD脱渋と1-MCP（1ppm）処理を16時間処理後、防湿段ボール箱に箱詰めし、25℃で静置しました。梱包1日後に2℃、1℃、0℃で32日間貯蔵した後、段ボールから取り出して25℃に移し（収穫後35日目）、果実の軟化率を調査しました。

調査の結果、輸送温度を0℃とすることで25℃移行後5日目（収穫後40日目）まで軟化が認められず、9日目（収穫後44日目）まで軟化率を10%以下に抑制できることが明らかになりました（図2）。

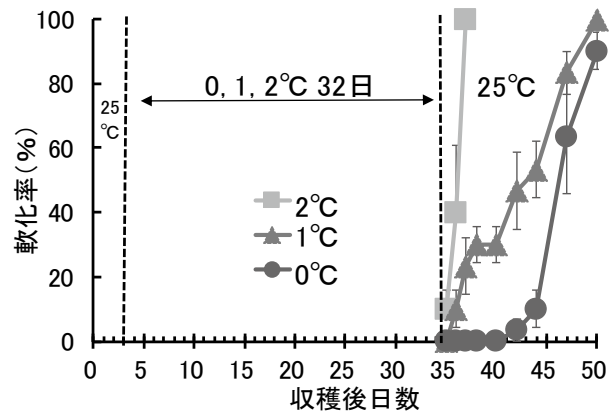


図2 輸送温度の違いが搬出後の‘刀根早生’の軟化に及ぼす影響
誤差線は標準誤差(n=3)

3. まとめ

令和2～4年度まで取り組んだ試験の成果から、‘刀根早生’の米国向け海上輸送では、①脱渋と同時に1-MCP処理すること、②選果梱包直後～販売開始まで0℃を維持すること、③収穫～販売開始までを30日以内とすることが重要ということが明らかとなりました（図3）。

また、「かき‘刀根早生’の海上輸送による米国向け輸出時の品質保持マニュアル」を令和5年1月に発行し、かき・もも研究所ホームページ (<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/kakimomo/kakimomo/seika/seika.html>) で公開しました。

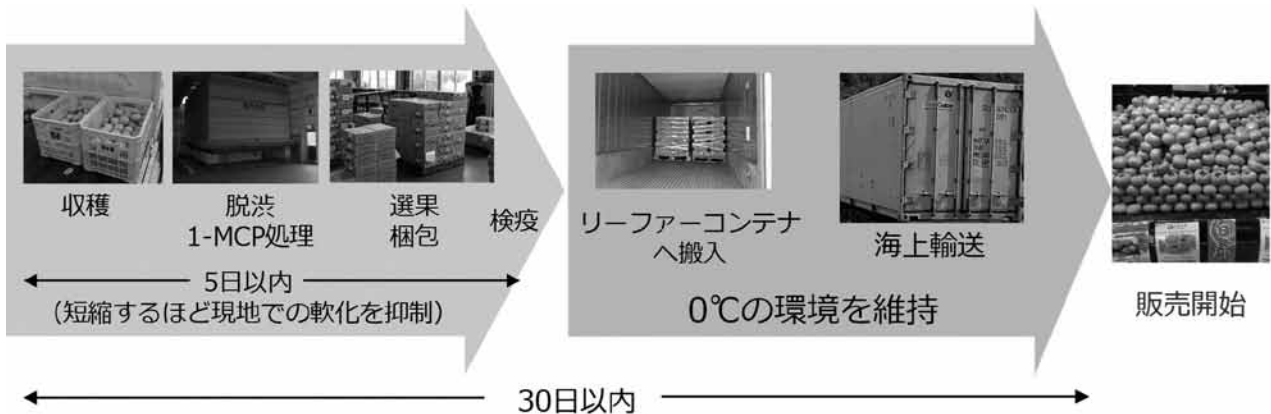


図3 ‘刀根早生’の海上輸送による米国輸出時の推奨する流通体系

試験研究レポート

REPORT

画像解析による紀州和華牛の肉質特性の究明

紀南家畜保健衛生所東牟婁支所 主査 後藤洋人
(元、畜産試験場大家畜部勤務)

背景・ねらい

紀州和華牛は和歌山県畜産試験場と近畿大学との共同研究により2019年に開発された和歌山県の新しいブランド牛肉である。県内産の食品加工副産物を利用した飼料（以下、エコフィード）を10%以上含む飼料を黒毛和種牛に給与し、適度な脂肪交雑の和牛肉の生産を実現している。過去の研究および出荷成績から、紀州和華牛は慣行肥育牛に比べビタミンE量が多いこと、「きめ」や「しまり」を高く格付された割合が多いことなど、優れた肉質特性を持つことが明らかになった。

そこで、これらの紀州和華牛の品質特性をより高めて消費拡大を図るため、筋肉構造の違いに着目し、牛肉の構造を組織学的に調べ、組織学的特徴を保水性や脂肪酸組成等の理化学的分析で裏付けし、紀州和華牛の肉質特性を明らかにした。

研究の成果

1 画像解析

胸最長筋のホルマリン固定薄切標本を顕微鏡撮影した画像を用いた。標本の染色には筋繊維、膠原繊維、弾性繊維を染色するエラスチカワンギーソン染色（前田変法）を用いた。牛の各個体につき切片上で形態の整った第2次筋束を選び、第2次筋束内の第1次筋束数、第2次筋束の断面積、第1次筋束の断面積、第1次筋束内筋繊維の断面積、第1次筋束内筋繊維の繊維数を、画像処理ソフト(Fiji)を用いて測定したところ、慣行肥育牛に比べ紀州和華牛で第2次筋束内の第1次筋束数が有意に多く、筋繊維が有意に細かった（表1）。

表1 紀州和華牛および慣行肥育牛の筋束および筋繊維の差

	慣行肥育牛(n=7)	紀州和華牛 (n=7)
BMS No.	6.3 ± 2.0	6.3 ± 0.7
第2次筋束内の第1次筋束数	4.9 ± 1.2 ^b	7.0 ± 1.7 ^a
第2次筋束の断面積(mm ²)	1.4 ± 0.6	2.3 ± 2.1
第1次筋束の断面積(mm ²)	0.3 ± 0.1	0.3 ± 0.2
第1次筋束内筋繊維の繊維数	93.2 ± 62.5	120.4 ± 74.8
第1次筋束内筋繊維の断面積(μm ²)	2,124.5 ± 658.4 ^a	1,285.4 ± 297.1 ^b

平均値 ± 標準偏差 異符号間に有意差あり (a, b: P<0.05)

2 理化学的分析

紀州和華牛と同等級の慣行肥育牛の比較を行ったところ、紀州和華牛において枝肉重量、ロース芯面積、バラの厚さ等、枝肉成績に負の影響は見られず、理化学分析では肉色、脂肪の融点、脂肪酸組成、ビタミン量など複数の肉質に好ましい影響が見られた。分析は『食肉の理化学分析及び官能評価マニュアル』（家畜改良センター）に準拠して行った。

さらに、官能評価の結果、「なめらか」や「牛肉らしいにおい」といった官能特性を持つ可能性が示された。

表 2 紀州和華牛および慣行肥育牛の枝肉成績と理化学的分析

		対照区 (n=5)	エコ30%区 (n=10)	エコ50%区 (n=10)	P値
BMS No.		6.2±2.0	5.9±1.1	5.8±1.3	0.891
しまり		4.0±0.9	3.8±0.4	3.9±0.5	0.836
保水力	ドリップロス (%)	20.1±3.0	23.3±2.9	23.6±3.1	0.102
	クッキングロス (%)	14.0±2.7	14.4±2.3	15.2±2.0	0.576
粗脂肪含量	(%)	39.4±8.7 ^a	31.5±3.9 ^b	35.2±4.4 ^{ab}	0.035
脂肪酸組成	パルミチン酸 (C16:0) (%)	30.0±2.4 ^x	27.4±2.4 ^y	27.7±1.7 ^{xy}	0.088
	リノール酸 (C18:2) (%)	2.1±0.7 ^b	3.7±0.6 ^a	3.8±2.6 ^a	0.004
	飽和脂肪酸割合 (%)	45.3±3.5	41.6±3.4	42.7±2.9	0.137
	不飽和脂肪酸割合 (%)	54.7±3.5	58.2±3.4	57.3±2.9	0.164
	一価不飽和脂肪酸 (%)	52.6±3.3	54.7±3.3	53.5±3.0	0.448
	多価不飽和脂肪酸 (%)	2.2±0.6 ^b	3.7±0.6 ^a	3.8±1.1 ^a	0.004
脂肪融点	(°C)	31.4±3.5 ^a	25.5±2.5 ^b	27.2±4.5 ^{ab}	0.021
脂質酸化値	(μM)	3.9±0.9	3.9±0.5	3.6±0.7	0.562
ビタミンE量	(μg/g)	22.0±7.5 ^b	39.4±5.3 ^a	36.1±5.8 ^a	<0.001

平均値±標準偏差 異符号間に有意差あり (a, b : P<0.05, x, y : P<0.1)

成果のポイントと活用

- ①紀州和華牛の筋繊維が慣行肥育牛と比べて細いこと、肉のビタミンE量が多いこと、多価不飽和脂肪酸割合が多く脂肪の融点が低いいため脂の口どけが良いことなど、セールスポイントとなる長所を複数発見することができた。
- ②エコ30%区に比べ、エコ50%区で値がばらつく理化学分析値が複数あり、エコフィード配合割合を高めると紀州和華牛の肉質特性が変化する可能性があることがわかった。
- ③今後、セールスポイントとなる特性が最大に得られる配合割合を探求し、エコフィードの質や量により肉質の特性がどう変化するかを調査していく予定である。

普及活動レポート

REPORT

次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト ～新品种導入、省力化実践、技術向上支援～

海草振興局 農業水産振興課

1. はじめに

「貯蔵みかん」の産地である海南市下津地域は、平成31年2月「下津蔵出しみかんシステム」として日本農業遺産に認定され、世界農業遺産の認定に向けた取組も、有田地方とともに現在進めているところです。近年はみかんの価格も安定し、産地にとっては追い風が吹いています。

海草振興局では下津地域の貯蔵みかん産地を活性化させるため、普及組織の重点課題として「新規就農者」「新品种」「省力化」「農地」をキーワードに令和2年度から3年間のプロジェクトに取り組んでいます。前回（第19号）は新規就農者に係る活動を紹介しましたが、今回は新品种の導入、省力化実践および技術向上について報告します。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

温暖化の進展にともないみかん樹の生育相変化、果実品質の変化が見られるようになりました。下津地域は貯蔵みかんの産地ですが、みかんの浮き皮現象による品質低下、貯蔵性の低下が問題になってきました。また、傾斜地での栽培が多いことから厳しい条件での労働となります。このことは、技術を充分駆使できない園地が発生する要因で、農作業の省力化や軽労化が求められています。

(1) 「新品种」植美の導入支援

「植美」は有田川町内で一樹変異として発見され、令和元年に登録された晩生みかんの新品种です。

管内でも早くから調査を行いながら、「植美」を新たな導入品種として検討してきました。4か所に設けた試験ほ場でも継続して調査を行ってきており、既存の「林温州」と比較して糖度、酸度ともに同程度で浮皮程度が低く貯蔵性が高いという優位性を確認できています。令和5年度以降は苗木の供給も増えることから、「林温州」の老木園を中心に改植が進みそうです。



「植美」の品質調査

(2) 「省力化」施設及び機械の導入推進

毎年、管内でスマート農機実演会を開催しています。各メーカーのスマート農機も進化し、実用性が高まってくるにつれ、生産者の導入意欲も高まっているように感じます。

現場への普及にあたっては、スマート農機の導入に活用できる補助事業（日本一の果樹産地づくり事業）等を紹介しながら推進してきました。結果、令和4年度はねこ車電動化キット「E-cat kit」が30台、アシストスーツ2台が導入され、前年からのスマート農機導入数は48台となりました。

また、省力化のための園地整備では園内道0.7ha、モノレール9.8haが新たに導入されています。新たに農機を導入した農業者とは現場で随時意見交換をしています。スマート農機については価格とその効果が見合った機器から導入が進む傾向にあります。新たにスマート農機として認定された製品もあり、その実用性も確認しながらも導入を推進していきます。



スマート農機実演会

(3) 「匠の技 伝道師」による研修

「匠の技 伝道師」として県知事認定されたみかん生産者を講師に迎え、令和4年度は3回の研修会を開催、延べ58名が参加しました。新規就農者だけでなく、ベテラン農家まで参加する人気の講座となっています。

新規就農者にとっては経験が浅く難しい研修かもしれませんが「匠」との交流が図れる場となり、研修外でも直接質問に出向くなど師弟関係が結ばれつつあります。

経験のある農家にとっても「匠」から技術を学べ、自身の営農の問題点を発見する機会になっています。問題点の発見により視点が変わり、園地管理が変わることでみかん産地活性化のための一助となっています。



「匠の技 伝道師」による研修

3. 今後の取り組み

みかんの新品種は次々と発表されますが、下津地域の貯蔵に適する品種はこれからも適応性の確認は必要です。新品種の導入は園地の若返りになり、生産安定からひいては産地活性化へ繋がっていくものだと考えます。

また、省力軽労化に実現は過酷な作業から農業者を解放し、園地観察をする余裕を生みます。さらに、「匠の技 伝道師」の研修会は卓越した技術が農業者を引きつけ、農業者交流の機会になって新たな価値を創出する土壌となりつつあります。これまでに増して、技術発信や農業者の情報交換をより盛んにしたいと思います。

桃産地の生産力強化と病害虫対策

那賀振興局 農業水産振興課

1. はじめに

当課では、令和3年度から普及計画の重点プロジェクトとして、「あら川の桃」をはじめとする桃のブランド産地を維持するため、温暖化や中生品種の拡充等に対応した優良品種の導入、クビアカツヤカミキリ侵入・拡散防止対策に取り組んできたので、その活動内容と成果を紹介します。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

1) 気象変動に対応した「さくひめ」の導入

「さくひめ」は早生品種でありながら核割れが少なく、果実も大きいこと、また同時期の「日川白鳳」と糖度が同程度で食味がよいこと等から、現地への導入を推進しました。

現地3か所で果実品質調査を行ったところ、令和3～4年の果実の大きさは250g程度でかき・もも研究所の高接ぎ樹と比べ小玉傾向でした。しかし、令和5年の果実の大きさは265gと高接ぎ樹に比べて同等であったことから、樹齢を重ね樹勢が落ち着くことによって果実肥大は良くなる可能性が推察されました。

一方、令和元年以降は開花期（4月上旬）～袋掛け期（5月中旬）にかけての強風雨が少なく推移したことから、モモせん孔細菌病の被害は少なく推移していますが、そのような状況下であっても「さくひめ」にはせん孔細菌病の発生が認められ、推進に当たってのネックとなることが明らかとなりました。

また、他品種に比べると果皮着色の進行と果実の成熟度合が合致しないので、着色だけで収穫期を判断するのではなく、果実を軽く握り、果実硬度も見ながら収穫することが重要です。

2) 黄肉桃「つきあかり」の生産拡大

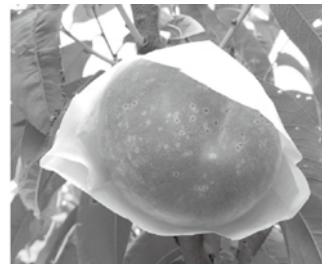
中生品種の軸である「清水白桃」は、生理障害が多く、せん孔細菌病に弱いことから、この時期に収穫できる代替品種が望まれていました。そこで、果肉が黄色いが食味のよい「つきあかり」を推進しました。

現地9か所で果実品質を調査したところ、かき・もも研究所のデータと比較して令和3～4年には約200～250g程度と小さかったものの、令和5年は約300gで同等でした。これらの園地では樹齢10年生に達し、ようやく樹勢が落ち着いたことが要因と考えられます。

また、「つきあかり」は収穫時に日光に当たると果実が赤く着色するので、黄色く仕上げるには収穫時まで



収穫期の「さくひめ」



せん孔細菌病被害果



収穫期の「つきあかり」

遮光袋で完全に被覆する必要があり収穫適期を外観で判断できません。

そこで、令和3年度に外観で着色が確認できるよう、UVカット加工された透明フィルムを貼り付けた果実袋を生産者に試用してもらいましたが、樹冠下では陰になり着色が判断しづらかったため、果実硬度が分かりやすい紙質の薄い製品が求められました。そこで製袋メーカーに働きかけ、令和4年度には薄い生地の果実袋をメーカーに準備してもらい試用しました。果実硬度は概ね分かりやすいとの回答を得ましたが、300g程度の大きい果実になると果実袋が破れ、日光の当たった部分が赤く着色する事例が見受けられました。それを受けて製袋メーカーとさらに協議を重ね、令和5年は薄い生地でより大きい果実袋を専用袋として試作してもらい試用しました。

結果、大きい果実でも果実袋の破れはなくなり、概ね生産者からは満足との声を頂いたので、製袋メーカーに本年試用した果実袋の生産供給を依頼し、「つきあかり」の収穫に適した果実袋の供給をサポートしていきます。



破れた部分が着色した果実

3) 特定外来生物クビアカツヤカミキリのまん延防止

那賀管内でのクビアカツヤカミキリの被害拡大を防止するため、JA等関係機関と連携し年間2回の巡回調査や被害発生園を行い警戒に当たりました。また、令和4年度からは非農家の庭先果樹での被害対策も重要であると考え、岩出市・紀の川市の全世帯に防除啓発チラシを配布しました。チラシにはLINEによる通報もできるような公式LINEアカウントを作成し、そのQRコードを掲載しました。



巡回調査

結果、年間10件ほどの通報があり、その内約半数がLINEによる通報でした。平日は仕事で連絡をすることができないので、土日、夜間を問わず連絡できるLINEは便利との声が聞かれました。



全世帯配布チラシ

農家、非農家問わず、クビアカツヤカミキリの通報を受けると、すぐに現場に直行してクビアカツヤカミキリの有無を確認し、掘り取りや補助事業を活用した伐採等の指導を行った結果、令和5年度の新たな園での被害件数は令和4年度に比べて減少しています。

3. 今後の取り組み

「さくひめ」「つきあかり」とともに、苗木から育成した若木では小玉果傾向が見受けられる一方で、高接ぎによる栽培では大玉果の傾向があります。今後は、高接ぎまたは中間台を挟んだ苗木を導入することにより、早期大玉果生産を検討していくこととしています。(令和4年の種苗法一部改正により、「さくひめ」「つきあかり」等農研機構で育成され、育成者権の切れていない品種を自家増殖する場合、農研機構の許諾が必要です。詳細は農研機構のホームページをご覧ください。)

また、クビアカツヤカミキリについては、薬剤防除を啓発するとともに、既発生園を中心とした周辺の巡回調査を継続し、早期発見・早期駆除を実施することにより、被害拡大防止に努めます。また、新たな防除対策として、未発生園への侵入防止対策としての侵入防止ネットの利用を検討します。

本年7月には、産品の名称を地域の知的財産として保護する制度である地理的表示GIに「あら川の桃」が登録されました。県内の果実では初めての登録であり、これからもブランドの認知度を高める取組を支援していきます。

クビアカツヤカミキリの被害拡大防止への取り組み

伊都振興局 農業水産振興課

1. はじめに

クビアカツヤカミキリは、もも、すもも、うめ、さくらなどのバラ科樹木に産卵し、幼虫が樹の内部を食害して枯死させる外来のカミキリムシです。県内では、令和元年にかつらぎ町で初めて被害が確認されて以降、令和5年7月までの5年間で被害が8市町にまで広がり、急速な被害の拡大から生産現場では危機感が高まっています。伊都地域では被害の拡大を防止するため、管内の各市町、JA紀北かわかみ、県かき・もも研究所、農業共済組合北部支所、伊都振興局（以下、「関係機関」と表記）が協力し、対策に取り組んできました。ここでは、現在の被害状況と関係機関の取り組み、防除対策について紹介します。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

1) 伊都地域におけるクビアカツヤカミキリ被害の経緯と被害の状況

伊都地域では、平成29年7月にかつらぎ町で県内初のクビアカツヤカミキリの成虫（図1）が発見されました。その後、令和元年11月にかつらぎ町のももにおいて、県内初のフラス（図2、木くずと虫糞の混合物）を排出した被害樹を確認しました。令和元年に被害を確認して以降は、同町内だけでなく近隣市町にも被害が拡大し、令和2年6月には橋本市のももで、令和4年1月には九度山町のすももで被害を確認しました。その後の調査においても被害は拡大しており、令和5年5月には伊都地域の農地のもも、すもも、うめの果樹類で1,320本、農地以外のさくら等で39本の被害を確認しています（表1）。

2) 伊都地域における関係機関の取り組み

初夏と秋冬の年2回、関係機関が協力して広域的に調査を行う特別警戒調査を実施し、被害の状況把握とその後の防除対策指導に取り組んでいます（図3）。調査を実施する際は、市町・JAの広報や市町の回覧板を活用し、生産者とあわせて一般の方にも防除啓発と調査へのご協力をお願いしています。本年の調査では、関係機関の調査員が被害を発見するだけでなく、生産者や一般の方からの通報で被害を確認したり、成虫を見たとの通報から被害園地を発見するなど、生産者はもとより一般の方の防除意識も高まっています。引き続き、関係機関と協力して防除啓発を継続するとともに、研修会の開催や防除対策指導に取り組んでいきます。

3) クビアカツヤカミキリの防除対策

被害の拡大を防止するため、産地全体で適切に防除を実施するとともに、こまめに園地を巡回して被害の有無を適宜確認し、被害が発生した場合は速やかに被害樹の処分や処置を行いましょ。主な防除対策としては、以下のとおりです。

① 農薬の樹幹散布

成虫の発生時期である6月-8月に防除を行います。防除は枝葉だけでなく株元と幹を含めた樹全体に登録農薬を散布します。詳しくは、JA防除暦や一斉防除の案内を確認してください。

②被害樹の伐採・抜根

成虫が樹から脱出しない9月-4月の時期に株元から伐採します。伐採後は伐根するか、株元を目合い4mm以下のネットとブルーシートを用いて覆い、土やマルチ抑え等を用いて密閉します。

伐採した樹は枯れても成虫が脱出するので、粉碎または焼却処分など適切に処分を行います。

③ネット被覆による成虫の拡散防止

ネット被覆は被害樹から成虫の飛散を抑制し、健全樹や他園地への被害の拡大を防止します。成虫が脱出して拡散しない様、目合い4mm以下のネットを用いて樹を2重に被覆します(図4)。

ネット被覆後は定期的に園を見回り、ネット内の成虫を捕殺する必要があります。ネット被覆は、伐採や伐根などの処置が出来ない場合に有効な方法です。

④幼虫の掘り取り・刺殺

幼虫の活動時期は4月～10月頃とされており、その間に幼虫は被害樹の内部を食害し、樹から特徴的なミンチ状のフラスを排出します。排出されたフラスを見つけたら、マイナスドライバーとハンマー等を用いてフラス排出口付近の樹皮を剥ぎ、付近に幼虫がいれば掘り取りして捕殺します(図5)。樹の奥に侵入している場合は、食入孔に針金(太さ約2mm)を差し込んでフラスを掻き出し、幼虫を刺殺します。フラスを掻き出した食入孔に、スプレー型の薬剤を噴射します。処置後は期間を空けて見回り、フラスの再排出がないか確認します。

3. おわりに

県内におけるクビアカツヤカミキリの被害は、令和元年から昨年までの間に紀の川流域の橋本市、かつらぎ町、九度山町、紀の川市、岩出市、和歌山市に、令和5年には御坊市、日高川町にも拡大しました。今後は新たな被害がどこで発生してもおかしくない状態です。皆様には成虫の発生する6月～8月には一斉防除の実施と、今まで以上の園地の見回りによる被害の早期発見に努められるとともに、被害が発生した場合は今回の紙面でご紹介した対策等を実施し、被害の拡大を防止していただくようお願いします。



図1 クビアカツヤカミキリ成虫



図2 フラス



図3 被害調査



図4 ネット被覆



図5 幼虫の掘り取り

表1 クビアカツヤカミキリの被害状況(令和5年5月末時点)

1. 農地の被害

市町名	品目	園地数	被害本数
橋本市	もも	42	63
	すもも	50	157
	うめ	51	124
かつらぎ町	もも	92	344
	すもも	70	386
	うめ	49	244
九度山町	もも	1	1
	すもも	1	1
合計		356	1,320

注) 園地数、被害本数は当初からの累計

2. 農地以外の被害

市町名	品目	箇所数	被害本数
橋本市	さくら等	12	21
かつらぎ町	さくら	4	18
合計		16	39

注) 箇所数、被害本数は当初からの累計

果樹間複合経営における品目 うめ「南高」の作業性向上と収穫量確保対策

有田振興局 農業水産振興課

1. はじめに

有田地方においてうめ「南高」は40ha栽培されており、かんきつとの果樹間複合経営を行う上で重要な品目です。青採り主体の当地方においては、収穫作業の効率化を進めればより一層の有望複合品目となります。

一方、うめ研究所では、主枝を切り下げて作業性を高めるカットバック剪定と徒長枝になるような新梢を摘心して着果枝に変える摘心処理を組み合わせた技術が開発されています。

そこで、既存の園地において作業性を向上させながら収量も低下させないこの技術の普及に取り組んでいます。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

<講習会>

令和3年から展示ほ場を設置し、JAありだウメ部会員及びJAありだ営農指導員を対象に実施しています。



剪定講習会



摘心講習会

摘心処理については、令和3～5年の3年間でのべ55人に参加いただきました。電動バリカンを使用することで簡単に摘心できることを実演し、収量も増え、冬期の剪定も楽になると説明しています。

カットバック剪定を含めた剪定については、令和4～5年の2年間でのべ47人に参加いただきました。地上2.5mの主枝をチェーンソーでカットして樹高を切り下げるとともに、摘心処理で発生した結果枝の剪定方法等について実演と説明をしています。

なお、参加者は、徐々に増えてきています。



摘心処理前の新梢



摘心処理後の新梢

<実証展示ほ場での処理成績>

令和3年から摘心処理し、令和4年1月にカットバック剪定をしました。

高い脚立を使用しなくても収穫できるようになり、収量も摘心処理前である令和3年の2,000kg/10aに対して、令和4年で2,664kg/10a、令和5年で2,304kg/10aとそれぞれ1.3倍と1.2倍になりました。



カットバック+摘心処理した樹の開花状況



摘心処理した枝の着果状況

<生産者の反応>

令和3年から導入が始まり、その面積は30aとまだまだ少ないですが、「収穫が楽になり、収量も増えた」「徒長枝切りが少なくなって剪定が楽になった」との評価を頂いています。

3. 今後の取組

当地域では取組が始まったばかりではありますが、実証展示ほ場での講習会や処理による結果をPRし、既存の園地で技術導入を進めていきます。

普及活動レポート

REPORT

うすいえんどう短節間新品種の導入による省力化推進

日高振興局 農業水産振興課

1. はじめに

えんどう類は本県野菜の主要品目であり、露地やハウスでの栽培が盛んに行われています。日高地域は県下作付面積の約80%（令和3年産）を占めており、中でも実えんどうは作付面積、出荷量ともに日本一の産地を誇っています。

一方、実えんどうの主力品種である「きしゅううすい」は、施設栽培では草丈が高くなることから、収穫や整枝等における作業性が問題となっています。

そこで、平成27年に当地域の「きしゅううすい」栽培ほ場の中で発見された「きしゅううすい」より節間が短く、草丈が低くなる短節間系統の有望品種「光丸うすい（令和4年3月15日品種登録）」の導入による実えんどう栽培の省力化を目指し、現地適応性の検討や種子安定供給への体制づくりなど、本品種の地域への普及推進に取り組んでいます。



展示ほでの生育状況（みなべ町 R4.01.12）
（左：光丸うすい、右：きしゅううすい）

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

（1）現地適応性の検討

日高野菜花き技術者協議会（構成機関：JA紀州、暖地園芸センター、農業水産振興課等）では、ハウス栽培において、管内2か所に「光丸うすい」の展示ほ場を設置し、「きしゅううすい」を対照品種として、生育状況や収量の調査を行い、ハウス栽培における生育特性や収量性について現地適応性を検討しました。

令和4年産の調査結果は、栽培終了時の「光丸うすい」の草丈は315cmとなり、「きしゅううすい」の364cmより13%低くなりました（図1）。また、出荷量は2,553kg/10aとなり、対照品種の3,340kg/10aより24%少ない結果でした（図2）。なお、収穫開始日は12月19日となり、対照品種の12月11日より8日遅くなりました。

このことから、本品種の草丈は「きしゅううすい」より低くなり、ハウス栽培における収穫作業の省力化等が期待できます。しかし、対照の「きしゅううすい」と比べて晩生であり、総収量も少なくなったことから、「光丸うすい」の特性に合わせた栽培体系確立が必要であることも明らかであり、栽培マニュアルの作成が急務となりました。

(2) 種子の安定供給対策（種子需要量の検討）

「光丸うすい」種子の安定供給を図るため検討会を開催し、供給体制の基礎となる種子需要量についてJAや県農、関係機関と協議を行いました。

併せて、「光丸うすい」の種子供給の現状や生産者の意向などを共有することにより、将来に向けての種子生産・販売の構想について認識の統一を図ることができました。

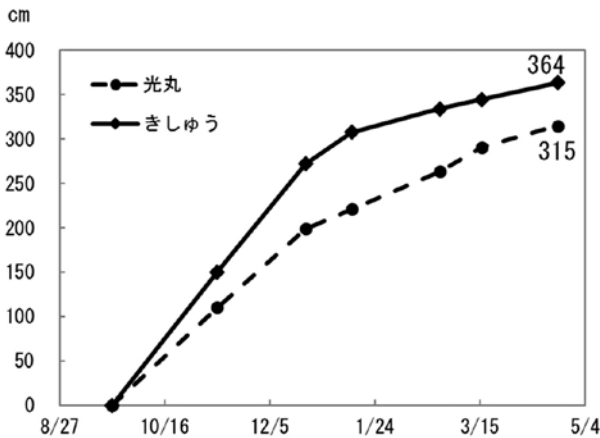


図1 草丈の比較

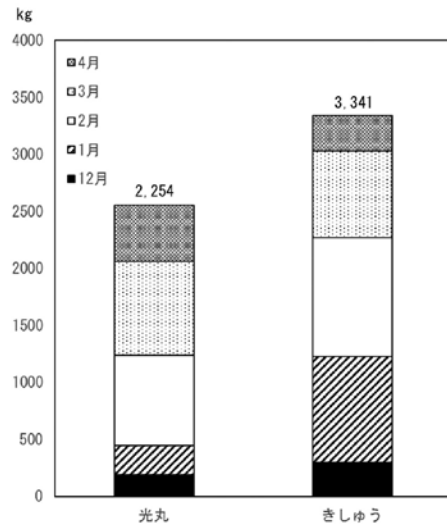


図2 月別出荷量（主枝）

(3) 導入推進への取り組み

R4年産は「光丸うすい」に関心のある11戸の生産者が約50aの試験栽培に取り組みました。これら試験栽培ほ場の巡回調査を行い、作型やほ場の違いによる生育状況を観察し、当該品種の栽培特性を得るための情報収集をおこなうとともに、これらのデータをもとに栽培マニュアルを作成しました。

また、栽培研究会を開催し、生産者や協議会員等で意見交換を行い、本品種の栽培方法や今後の普及推進について、情報共有を図りました。

3. 今後の取り組み

協議会と連携し、今後も展示ほ場の設置や試験栽培生産者への栽培状況調査により、「光丸うすい」栽培マニュアルのブラッシュアップを進め、マニュアルの完成度を高めるとともに、さらなる現地への普及推進に取り組んでいきます。

また、今後の作付拡大に対応するため、関係機関と連携して採種候補地の選定や採種団体との協議、育成権者との許諾契約の締結等を支援することにより、種子安定供給体制づくりを進めていきます。



栽培研究会（R4.09.08）

水田を活用した施設・露地野菜花きの振興

西牟婁振興局 農業水産振興課

1. はじめに

西牟婁地域の野菜花きは、イチゴやミニトマト、トルコギキョウ等の施設栽培及び温暖な気象条件を活かしたレタス、うすいえんどう・えだまめ等の豆類、ストック、ほおすき等の露地栽培が行われています。しかし近年、高齢化や担い手減少、価格低迷等により、栽培面積が減少していることから、高品質化や省力化の技術導入および多品目栽培を推進し、産地の維持発展を目指しています。

2. 取り組みの経過

(1) スマート農業の推進

施設内の環境制御による高品質安定生産に向け、イチゴの高設栽培施設3か所(田辺市、とこはるシステム)、ミニトマト栽培施設1か所(上富田町)で、施設内環境(温度、炭酸ガス濃度)および生育、収量、品質(糖度)を調査しました。

(2) 業務用野菜及び花き産地の振興

- ①業務用出荷に取り組んでいるレタスやえだまめの包装機、脱莢機に加え、獣害対策のネット設置に使用する支柱打込機等、省力化機械の導入を推進しました。
- ②花きの主力品目である分枝系ストックは、細根量を増やし生育を良くするため、播種から定植までの間に仮植を行っていますが、仮植には多大な労力がかかることから、セルトレイ(200穴)に播種し、仮植せずに定植する実証ほを2か所(白浜町、すさみ町)設置し、生育や開花期、切り花品質を調査しました。
- ③切り花として安定した需要のあるほおすきは、前作の地下茎を掘り上げ定植するため、土壌病害の発生が問題となっていることから、県外産地で導入されている実生から養成した地下茎を定植する栽培実証ほを5か所(田辺市、上富田町)設置しました。
- ④野菜花きの多品目栽培の推進に向け、西牟婁地域版の経営モデル指標を作成するため、すで実践している生産者に経営内容の聞き取り調査を行いました。

3. 活動の成果

(1) スマート農業の推進

モニタリングの結果、炭酸ガス濃度は施用機を導入している施設では外気と同程度の400ppmを維持しましたが、導入していない施設は300ppm程度の飢餓状態となることがあり、12～2月の合計収量は施用機導入施設が約20%増となりました。また、JA紀南イチゴ研究会会員2名がスマート農業実践塾を受講し、施設内環境モニタリングに基づく管理に関する理解を深めました。

(2) 業務用野菜及び花き産地の振興

- ①省力化機械について、J A紀南と連携し県単事業活用と併せて推進したところ、令和3年度以降新たに2名が支柱打込機等を導入しました。
- ②ストックのセルトレイ育苗について、切り花長は従来の仮植育苗と同じくL級（50cm～60cm）中心でしたが、茎径および切り花重は、下位部の側枝を中心に、ばらつきが大きくなりました。生産者、農業試験場を交え検討した結果、明確な原因は不明なものの、摘心時に下位部の側枝がすでに3～5cm伸長しているものが多く、摘み取ればよいと考えられるため、栽培実証を継続します。
- ③ほおずきは、生産者やJ A紀南営農指導員、暖地園芸センター担当者とともに、実証ほ設置検討会を開催し、前作の結果をもとに意見交換しました。実生苗は地下茎が短いものの良い芽数が多いため、植付間隔を広げて品質向上や省力化を実証することや病害防除・葉かき・ホルモン処理等の重点管理のタイミングが生産者間で違うことが分かったため、品質との関係を整理すること等を共有しました。



ほおずき地下茎生育調査（田辺市）



ほおずき栽培研修会（田辺市）

- ④多品目生産者4名に経営状況を聞き取り、年間の組み合わせ内容を絞り込むほか、新規就農者の導入推進に向け、白浜町農業振興協議会での受入体制整備を検討するため、先進事例である紀州田辺産地受入協議会の取組内容に関する勉強会を実施しました。



新規就農者受入勉強会（白浜町）

4. 今後の取組

(1) スマート農業の推進

モニタリング結果をもとにした栽培管理を実践するため、実践塾の受講や研修会により生産者の環境制御技術に関する意識を高めていきます。

(2) 業務用野菜及び花き産地の振興

レタス・豆類を中心に省力化機械の導入、ストックのセルトレイ育苗による省力化およびほおずきの実生地下茎利用による高品質安定生産技術の確立を図るとともに、新規就農者受入体制整備と就農モデルプランとして西牟婁地域版経営モデル指標の活用を推進し、野菜花き産地の振興に取り組みます。

普及活動レポート

REPORT

いちご産地の体制強化を重点とした普及活動

東牟婁振興局 農業水産振興課

1. はじめに

当課では、令和3年度からの3年間、普及指導計画の重点プロジェクトとして「半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化」、一般課題として「じゃばら・ゆずの安定生産対策」及び「地域の特性を活かした野菜の産地育成強化」の3課題に取り組んできましたので、それらの活動内容と成果の概要を紹介します。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

1) 半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化

地域で生産されるいちごは、「くろしお苺」として親しまれ、地元市場から高く評価されています。しかしながら、生産者の高齢化や平成23年の紀伊半島大水害による被害もあり、生産が需要をみたさない状況となっているため、産地の維持や水害前の産地規模への復興に向けた普及活動を行っています。

いちごに特化した就農支援体制の整備を支援し、令和2年度に生産者・JA・関係町で構成するみくまの産地協議会が設立され、管内での新規就農者の研修等の支援を行っています。当課はオプザーバーとして協議会に参画しています。

協議会では、就農希望者に対しいちご栽培を主とした農業経営を提案するため、協議会で作成した「産地提案書」や「イチゴ新規就農支援プログラム」を活用し、就農相談等に対応しています。

新たに新宮市において9月に1名が就農し、これにより協議会設立後に支援した新規就農者は3名となりました。



いちご炭そ病検定研修会
(新規就農者の定着支援)



UI ターン就農相談フェア



産地面談会

また、新規就農者を含むいちご生産者全体を対象とし、いちごの高品質・多収に向けた栽培技術向上による経営の安定化を図るためJAと連携し病害虫対策等の研修会開催のほか、気象災害による経営リスクの低減を図るため国庫や県単を活用した耐風性ハウスや高設栽培施設の導入を推進しています。

2) じゃばら・ゆずの安定生産対策

じゃばらは、樹体の高齢化やカンキツ幹腐病の発生により生産量確保対策が必要となっているため、新植・改植を推進しています。カンキツ幹腐病は、東牟婁地方のような降水量が多い地域で発生しやすく、管内ではじゃばらやゆずで発生しています。その対策として、北山村大沼のじゃばら園に幹腐病対策の実証ほ10aを設置し、間伐や殺菌剤使用等による対策技術の効果を確認するとともに、生産者に対策技術の徹底を指導しています



カンキツ枝腐病対策処理状況

ゆずは、生産者の高齢化・担い手減少により栽培管理が十分に行われず、隔年結果、カンキツ幹腐病の発生、鳥獣被害等が課題となっています。高齢者が安全に作業をできるように樹形改造（低樹高化）やカンキツ幹腐病対策を推進しています。

3) 地域の特性を活かした野菜の産地育成強化

地産地消を目的とした野菜のミニ産地づくりや耕作放棄地解消に向けた普及活動を行っています。

くろしお熊野やさいグループが取り組んでいるくろしお熊野やさいの13品目（ほうれんそう、こまつな、葉ねぎ、しゅんぎく、ピーマン、ししとう、なす、とうもろこし、えだまめ、ブロッコリー、キャベツ、にんじん、葉しょうが）について、現地検討会等で現地指導しています。



くろしおナス組合の現地検討会

3. 今後の取り組み

いちご（重点課題）に関しては、令和2年度にみくまの産地協議会が設立され、就農希望者の支援体制が構築されました。今後も、いちご栽培を主とした農業経営について県Uターン就農相談フェア等で紹介し、新規栽培者を確保するとともに生産者全体の経営の安定化を図るため、関係機関と連携しながら普及活動を展開し、平成23年の紀伊半島大水害前の産地規模への復興を目指します。

地域の逸品 !!

全量糖度計測、感動桃

紹介者

和歌山市 地域農業士

山本達弥

1. 農園の紹介

《11代続く》リピーターが足繁く通う農家による産直『感動果物農家山本農園』の紹介です。

山本農園のある和歌山市山東は、多くの栄養素を含んだ高い地力の赤土土壌です。高い地力ということ聞こえは良いのですが、栄養が不必要なタイミングでも木が吸ってしまい、締まりのないメタボ果物になってしまうケースが多々あります。なので、BM ミネラル農法という土壌微生物の活動に着目した栽培方法で、果樹に栄養分の吸収をコントロールさせて、引き締まった果物を育てるようにしています。

しかしながら、農産物はどうしても自然のもの。味わいに個体差が出ることもしばしば。感動果物農家と名乗るからには徹底的に、お客さんに喜んでもらいたいと考え、桃の糖度計測を“全量”行っています。全量計測を行うと、栽培結果の“答え合わせ”がはっきりしますので、徐々に栽培技術が鍛えられます。2021年の8月には県下トップクラスの糖度 31.2 度を記録しました。(川中島白桃、クボタフルーツセクター計測)しかしながら、大阪、福島にはさらに高い糖度を出す農園もいらっしゃるの、まだまだ通過点だと考えています。

和歌山市山東地域から、心から美味しい、食べたことない、と“感動”するような果物を提供して、みなさんの“家族、親戚、大切な人たち”に笑顔が広がることを本気で願っています。

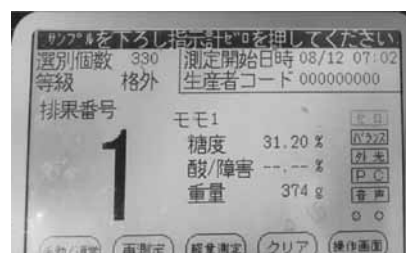
一度食べて頂いたら、間違いなかった、とっていただけるはず。感動果物農家山本の名に恥じない、確かなものをお届けしてまいります。



直売所



フルーツセクター



糖度 31.2 度を記録 !

2. お問い合わせ先等

感動果物農家山本農園 和歌山市奥須佐60

TEL 073-478-0640

営業時間 9:00-17:00

※ {感動果物農家山本農園} で検索 各種ECサイトでの販売もございます。

こんな技術知ってる？

「紀州てまり」のジョイント栽培と袋かけ栽培

紹介者

橋本市 地域農業士

阪本龍哉

私は平成16年に就農して柿の栽培に取り組む中、自身の園で様々な整枝・剪定技術について試験を行ってきました。中でも、ジョイント栽培は管理作業の省力化が期待できる技術です。また、本年から試験を開始した袋かけ処理は、日焼け果の発生を防止し、高品質な果実を生産することができます。ここでは、自園で取り組んだ「紀州てまり」のジョイント栽培と袋かけ処理について紹介します。

1. 技術の概要

(1) ジョイント栽培

神奈川県で開発された、一列に植栽した苗木を隣の苗木に接木により連結して成園化する技術です。この技術は、ナシ及びウメを対象樹種として特許を取得されています（神奈川県、平成24年1月6日付け、特許第4895249号）。柿のジョイント栽培では、植栽2年目から収穫でき、早期成園化が可能です。また、果実の着果位置が低く、脚立を使った高所作業がなくなることから、摘らいや摘果、収穫作業の省力化が図れます。

(2) 袋かけ処理

果実の成長期に風雨等から果実を保護し、きれいな果実を収穫することが出来ます。今回は、日焼け果の発生防止を目的に処理を行いました。

2. 最後に

私は「紀州てまり」の管理作業の省力化を目的に、令和元年度に130本、令和2年度に450本、令和3年度に100本の計680本でジョイント栽培を導入しました。導入した園では樹形がシンプルになり、パートを入れても見残しが少なく、摘蕾や収穫等の作業が楽になりました。

しかし、ジョイント栽培にはデメリットもあります。主枝の位置を低く抑えられる反面、草の管理が通常の樹形で栽培するよりもシビアです。私はモアと除草剤を用いて、草管理を行っています。

また、「紀州てまり」は樹が弱く、ジョイント栽培では日焼け果の発生が多くなります。そこで、本年から袋かけ処理に取り組んだところ、処理区では明らかに日焼け果の発生が少なくなりました。処理の効果については、収穫時に外観の品質と食味、渋残りの有無等を調査し、処理に係る労力と経費を勘案したうえで、総合的に判断したいと考えています。



ジョイント栽培



隣接樹とのジョイント



袋かけ処理区



袋かけ処理



無処理区（日焼け果）

地域の逸品 !!

「イタドリ」を味わい尽くす加工品

紹介者

日高川町 指導農業士

大嶋 徳 男

1. 商品の紹介

日高川町美山地域では、イタドリを郷土山菜として昔から食しており、近年では全国的にも珍しい自家畑での栽培も行われています。

「ごんちゃん」は当町の生活研究グループ美山支部が商品化した商品で、イタドリを独自製法で味わい深く歯ごたえよく仕上げられており、30年超のロングセラー商品で私も大好きです。

また、最近ではイタドリの若芽や花・皮などを活用した珍しい加工品「美山の贅（みやまのぜい）シリーズ（イタドリジャム、ドレッシング、お茶）」が販売されています。

令和5年3月には、「ごんちゃん」や「美山の贅シリーズ」がプレミアム和歌山に認定され、「ごんちゃん」については、最高賞である審査員特別賞を受賞されました。

「ごんちゃん」は美山ふるさと産品販売所で販売されています。店頭に並ぶとすぐに売り切れる逸品。ぜひみなさんもお賞味ください。



30年超のロングセラー「ごんちゃん」



新商品「美山の贅シリーズ」

2. お問い合わせ先等

日高川町生活研究グループ美山支部

<https://www.facebook.com/MIYAMASEIKEN>

日高川町川原河 201-1 美山ふるさと産品加工所内

電話：080-2532-6140

県からのお知らせ

すべての農業者の皆さまへ

収入保険



和歌山県PRキャラクター
「きいちゃん」

に加入しませんか？

収入保険があなたの農業経営をサポートします！

すべての農産物を対象に、

自然災害や価格低下などあらゆる収入減少のリスクに対応します。

農産物を出荷できず
収入が大幅に下がった



取り引き価格が
下がった



安心して農業ができる
バックアップが欲しい



ケガや病気で収穫が
十分にできなかった



新型コロナウイルスの
影響で収入が下がった



収入が減った時すぐに
営農資金を確保したい



加入には青色申告の実績（最低1年）が必要です！

収入保険は青色申告の農業者を対象とした農業保険です。

白色申告の方も、最寄りの税務署に「青色申告承認申請書」を提出すれば、早期に収入保険に加入することができます。

※白色申告の方は、農業経営を守る保険として農業共済制度もありますので、詳しくはNOSAIまでお問い合わせください。

お問い合わせは最寄りのNOSAIまで

安心のネットワーク
NOSAIわかやま

本所

〒640-8331 和歌山県JAビル5F TEL **073-436-0771**

北部支所

管轄区域：和歌山市・海南市・海草郡・岩出市・紀の川市・橋本市・伊都郡
〒649-6531 紀の川市粉河681-2 TEL **0736-73-6724**

中部支所

管轄区域：有田市・有田郡・御坊市・日高郡（印南町・みなべ町を除く）
〒643-0004 有田郡湯浅町湯浅1696-3 TEL **0737-63-5121**

南部支所

管轄区域：印南町・みなべ町・田辺市・西牟婁郡・新宮市・東牟婁郡
〒646-0027 田辺市朝日ヶ丘24-10 TEL **0739-22-0833**

収入保険について
詳しくはこちら

収入保険



NOSAI全国連 NOSAIわかやま

(2022.9)



和歌山県は農業経営を守るため、収入保険や農業共済の加入を推進しています。

県からのお知らせ

令和6年度 和歌山県農林大学校農学部 学生募集！

和歌山県の農業に活力を与え、地域リーダーとして活躍できる人材を育成する農林大学校。
令和6年度の農学部の入学試験を下記のとおり行います。



※) 詳細は募集要項で必ずご確認ください。

学科	一般入学試験（前期）	一般入学試験（後期） ※一般入学試験（前期）で 定員を満たした場合は実施しません。
入学定員	園芸学科：30名	アグリビジネス学科：10名
修業期間	2年	
試験日	令和5年11月29日（水）	令和6年3月4日（月）
受験資格	高等学校を卒業、または令和6年3月までに高等学校を卒業見込みの者 （詳細は下記まで問い合わせて下さい）	
試験科目	1 筆記試験 ①必須科目 小論文、数学Ⅰ、国語総合 ②選択科目 生物基礎、化学基礎、農業と環境の3科目から1科目を選択 2 面接試験 農業、社会常識 など	
出願期間	令和5年11月10日（金） ～11月17日（金）	令和6年2月9日（金） ～2月16日（金）
合格発表	令和5年12月6日（水）	令和6年3月7日（木）
試験場所	農林大学校 農学部	
提出書類	ア 入学願書（本校指定用紙 別紙1-2） ※ <u>県外に住所を有する者は和歌山県農林大学校志望調書（本校指定用紙 別紙2）も提出のこと</u> イ 最終学校の卒業証明書 ウ 最終学校の調査書、または成績証明書 エ 健康診断書（本校指定用紙 別紙4） オ 履歴書（市販のもの） カ 写真2枚（うち1枚は「ア入学願書」へ貼り付けること） キ 返信用封筒2枚（宛先を明記し、封筒1枚につき414円分の切手を貼り付け） ※令和6年3月卒業見込みの者は、イ、オは不要	

問い合わせ先

和歌山県農林大学校農学部

〒649-7112 和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降 422

TEL：0736-22-2203 FAX：0736-22-7402

ホームページアドレス

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/nourindaigaku/index.html>

（募集要項はホームページからダウンロードできます）



HPへアクセス！

県からのお知らせ

防除啓発

令和5年11月
和歌山県

[クビアカツヤカミキリ対策] 早期発見、早期駆除が重要！

- 令和元年11月につらぎ町で県内ではじめて被害が確認されて以降、紀ノ川流域のもも、すもも、うめ、さくら等で被害が拡大しています。また今年、御坊市、日高川町、由良町で新たに被害が確認されました。
- 成虫は5月下旬から8月にかけて発生し、樹皮表皮や割れ目などに産卵します。幼虫は樹の内部を食害し、1～3年かけて成長し、成虫となります。幼虫は3月下旬から11月にかけて活動し、フラス（虫糞と木くずが混ざったもの）を排出します。
- 幼虫の食害により、被害樹は枯死に至ることもあります。
- 生産者の方々は、常に園地をよく見回り、フラスや成虫を発見したら最寄りの振興局またはJAに連絡（発生地域を把握）するとともに、防除対策を徹底するようにお願いします。
- 被害は発生地域から離れたところでも発見されることもあるので、現在被害のない地域でも最大の警戒をお願いします。

○フラスを探す（3月下旬～11月）

※排出量が多い場合は11月以降でも確認できます！



株元に溜まったフラス



ミンチ状のフラス

フラスのあるところに幼虫がいます

○成虫を探す（5月下旬～8月）



成虫は体長2～4cm、光沢のある黒色で、前胸（クビ）は赤色です。繁殖力が強く、1頭あたり平均350個産卵し、1,000個以上の産卵事例もあります。

防除対策

- フラスを発見した場合は、幼虫の掘り取り、捕殺をしてください。フラス排出場所の表皮をマイナスドライバー等ではなく、太めの針金等を用いて食入孔のフラスを掻き出し幼虫を刺殺します。幼虫にはスプレー型の農薬の注入も有効です。
- 掘り取り、捕殺、農薬注入した後は、被害樹に4mm目合いのネットを2重に巻き付け、羽化後の成虫が他の樹に拡散するのを防ぎます。
- 被害木の伐採・抜根が被害を広げない最も有効な方法です。成虫脱出時期以外の9月～翌年4月に行ってください。伐採木は放置せず、直ちに破砕あるいは焼却するなど、適切に処分します。園外へ持ち出す場合は、伐採木を防風ネット又はビニールシートで覆って飛散防止措置をした上で運搬するようにしてください。
- 成虫は発見次第捕殺してください。特定外来生物に指定されており、生きたまま移動させることは禁止されています。
農薬散布も有効です。被害地域では収穫後の追加散布をお願いします。

支援策（病害虫防除対策事業）

県では、被害樹の伐採、抜根、ネット被覆に対する費用を支援しています。詳細は、最寄りの振興局にお問い合わせください。

県からのお知らせ

クビアカツヤカミキリ対策研修会 開催のご案内

県内主力果樹のモモやスモモ、ウメを食害するクビアカツヤカミキリの被害が、県内で広がっていることから、下記のとおり生産者等を対象とした対策研修会を開催します。

この研修会では、県内の被害の実態や防除対策を紹介し、クビアカツヤカミキリの被害拡大を防止するための知識と技術を学んでいただけます。

被害の拡大防止には、早期の発見と防除対策が重要です。大切な果樹をクビアカツヤカミキリから守りましょう！

1 開催概要

紀南会場

(1) 日時、場所

2023年

11月16日 (木)

13:30～15:00 (受付 13:00～)

みなべ町生涯学習センター

(みなべ町谷口301-4)

※先着100名まで

(2) 内容

- ・県内の被害状況と試験研究の取り組み
- ・那賀地域における被害状況と防除対策



紀北会場 (紀の川市共催)

(1) 日時、場所

2024年

1月31日 (水)

13:30～15:00 (受付 13:00～)

粉河ふるさとセンター 小ホール

(紀の川市粉河580)

※先着130名まで

(2) 内容

- ・県内の被害状況と試験研究の取り組み
- ・モモ生産者による防除対策

2 対象者

モモ、スモモ、ウメ等の生産者の方等 (参加自由、参加費無料)

3 参加申込方法

参加希望の方は、申込フォームに必要事項を記載のうえ、事前に申し込み願います。

【申込先】和歌山県 果樹園芸課 農業環境・鳥獣害対策室

メールアドレス：e0703002@pref.wakayama.lg.jp または FAX：073-428-3072

【申込期限】各会場とも開催日前日まで ※空席があれば当日の飛び込み参加も可能です。

(参考) 農業士について

昭和51年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士(65歳まで)」「地域農業士(65歳まで)」「青年農業士(40歳まで)」の3つの区分がある。

令和5年4月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	135名(うち女性	24名)
地域農業士	535名(うち女性	52名)
青年農業士	120名	
合計	790名(うち女性	76名)



表紙の人

那智勝浦町 地域農業士

松本 安弘さん

松本さんは、茶80a、露地野菜(ナス、とうもろこしなど)45aを栽培されています。

生産した茶は、お茶の生産販売組織である両谷園を通じて、煎茶・ほうじ茶・紅茶に加工し共同販売しています。

また、松本さんは生産者であるとともに、両谷園の共同製茶工場の工場長も務められています。

和歌山の農業士 第21号

発行日：令和5年11月

編集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印刷：株式会社 協和



和歌山の 農業士

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

